

平成 25 年度 邦楽地域活性化事業報告書



■はじめに

財団法人地域創造では、地域における創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりを目的として、 地方公共団体等との緊密な連携の下に、地域における文化・芸術活動を担う人材の育成や、公立文化 施設の活性化を図るための各種事業を実施しています。

これらの事業の一環として地域創造では、平成21年度のモデル事業実施を経て、平成22年度より、 邦楽地域活性化事業に取り組んでいます。

邦楽地域活性化事業は、地域創造がこれまで取り組んできた公共ホールを拠点とした地域交流プログラムに関するノウハウと、日本の伝統文化への取り組みを踏まえ、地域創造と都道府県や政令指定都市の中核ホールが共同で、研修会や域内市町村等でのアウトリーチ、コンサートなどの事業を実施し、地域に邦楽の特色を活かしたアウトリーチの手法および事業展開のノウハウを蓄積することを目指すものです。

この報告書は、徳島県および公益財団法人徳島県文化振興財団との共催により実施した平成25年度 邦楽地域活性化事業の内容を取りまとめたものです。

報告書の中では、主催団体および市町村ホールの担当者による成果や反省点・課題等についての報告をケーススタディとして掲載しました。また、コーディネーターによるレポートと邦楽事業に関するコラム、研修会やアウトリーチ、コンサートに参加された方々のアンケート結果を掲載しました。

全国の地方公共団体ならびに公共ホールのみなさまにおかれましては、本報告書をご活用いただき、 ぜひ邦楽に関する地域交流プログラムも含めた自主事業にお取り組みいただければ幸いです。

財団法人地域創造

目 次

I	. 邦	《楽地域活性化事業概要········			1
					2
	2.	事業の流れ	• • • • • • • • •		3
Π	<u> 1</u> 7	成 25 年度 事業記録			5
_	_				6
					7
					8
					9
					10
					11
					13
					16
	ο.	松石公(人) ログ ノム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			10
Ш	. 平	成 25 年度 事業報告			19
		主催団体報告			
		ディレクター	岩朝	利治(公益財団法人徳島県文化振興財団)	20
		担当者	日野	貴美子(公益財団法人徳島県文化振興財団)	
		チーフコーディネーター総評	児玉	真	
		地域交流プログラム報告	7011	^	
	Ο.	①海陽町			
		コーディネーター	米澤	浩	24
		阿波海南文化村海南文化館	森﨑	忠憲、岡川 忍	
		②小松島市	Able: 13	19484 1947 184	
		コーディネーター	谷垣卢	n 和子 ······	26
		小松島市ミリカホール	福井	正弘	
		③吉野川市			
		コーディネーター	吉田	真由美	28
		吉野川市鴨島公民館		浩二	
	4.	参加者の声 (アンケート結果)	,		
		①全体研修会			30
		_			34
					-
IV	. 平	成 25 年度 事業資料			37
	平成	25 年度邦楽地域活性化事業	総括公治	寅チラシ	38
	平成	25 年度邦楽地域活性化事業	総括公治	寅パンフレット	40
	「平月	成 25 年度邦楽地域活性化事業 写	実施要 終	岡」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	44
	コラ	دار.			
					A
		歌と三曲合奏 〜声と三弦・筝			4
		iラ・コンサートにおける合同演			40
	● TE	ホールオリジナルの作			18
	●坊	!代邦楽の父、宮城道雄 ~「春(ル海」 (は古典!?~ [吉田 真由美]	36

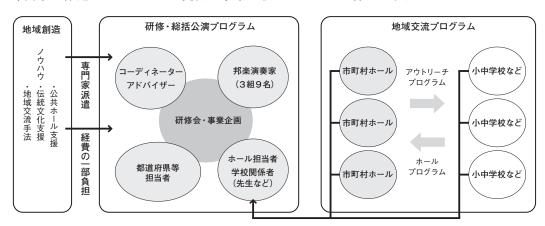
I. 邦楽地域活性化事業概要

1 事業の仕組み

都道府県・政令指定都市等と地域創造の共催で、公共ホールを中心に若手邦楽演奏家による各種プログラムを実施します。

実施都道府県内で選ばれた市町村ホールや、政令指定都市内の場合は管内の複数のホールが、それぞれ地元の学校向けに、アウトリーチと呼ばれる1クラス単位の教室での鑑賞型事業や、ホールでのワークショップなどの地域交流プログラムを行います。都道府県・政令指定都市等は、事業の実施に向けて様々な研修会などを開催しながら事業を統括し、最後に全演奏家が出演するコンサートを開催します。

地域創造からは、演奏家に加え地域の芸術活動や企画制作に詳しいコーディネーター・アドバイザーなどの専門家を派遣し、ノウハウの提供や事業全般のサポートを行います。



■事業の目指すもの・期待される効果

- ○公共ホールが邦楽事業に関するノウハウを獲得することで、学校等地域からの邦楽に関するニーズ に応えられるようになることを目指します。また、都道府県等の公共ホールを核とした市町村立ホー ルのネットワークづくりや人材育成、邦楽を通じた学校と公共ホールの連携促進につなげます。
- ○地域の子どもたちに日本の伝統楽器や邦楽のすばらしさを伝え、同時に、邦楽の演奏家や指導者、 教育関係者、ホール職員にアウトリーチをはじめとした地域交流プログラムの手法を獲得しても らうことにより、地域での邦楽への取り組みの幅を広げ、邦楽の継承発展を目指します。

■経費負担

(1) 地域創造が直接負担する経費

演奏家の事業参加に係る報酬(出演料、謝金等を含む)、派遣に係る交通費(現地移動費を除く)、 宿泊費、日当、派遣に係る傷害保険料。その他演奏家に対する現地までの楽器運搬費の補助。

- (2) 実施団体からの請求にもとづき、地域創造が負担する経費
 - ① 都道府県・政令指定都市等が支出した研修会、総括公演等実施に係る経費のうち対象とするものにつき、合計 450,000 円まで
 - ② 市町村等が支出した地域交流プログラム実施に係る経費のうち対象とするものにつき、1団体あたり50.000円まで
- (3) 地方公共団体等が負担する経費

上記以外の経費。具体的には、演奏家の現地移動費及び現地での楽器の輸送(宿泊先から学校・ホール間など)に係る経費等は各実施団体の負担となっています。

※ P.44「平成 25 年度邦楽地域活性化事業 実施要綱」参照

2 事業の流れ

■事前準備

- ・地域交流プログラム体制検討(実施市町村、実施ホール選定)
- ・アウトリーチ実施学校選定
- ・演奏家選定~説明会



■全体研修会

- ・事業説明、アウトリーチ等についての基礎講座、実務説明
- ・学校・市町村等担当者・演奏家・コーディネーターの顔合わせ



■現地下見

- ・市町村等ホール・アウトリーチ先学校の下見
- ・地域交流プログラム内容打合せ



■手法開発研修会(地域交流プログラム等の内容を具体化)

- ・地域交流プログラム手法開発ワークショップ、チームミーティング、 ランスルー (通し稽古)、モデルアウトリーチ・その他、総括公演に関する打合せ等



■地域交流プログラム

- ・学校アウトリーチ
- ・ホールプログラム(ワークショップまたはコンサート)



■総括公演プログラム

・参加演奏家全組出演による、都道府県・政令指定都市のホールを 会場としたガラ・コンサート

●地歌と三曲合奏 ~声と三弦・筝・尺八の関係~

平成 25 年度コーディネーター 公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 **谷垣内 和子**

多くの日本人にとって邦楽が非日常的存在となって久しい。昨年、ある大学で学生たちに邦楽のイメージを尋ねると、古臭い、単調、退屈、何を言っているのか分からない…等々、多くのマイナスイメージが並んだ。 "知らない"ことが最大の要因なのは確かだが、こうしたイメージを醸成する理由の一つに、言葉の問題がありそうだ。

邦楽の多くは声楽である。だからこそ、声を効果的に支え演出するのに適した、筝や三味線といった撥弦楽器(弦をはじいて音を出す)が発達したといえる。音楽面からは「歌い物」と「語り物」に二分して説明されることも少なくない。前者は、抒情的・叙景的性格の歌詞を「歌う」要素が強く、一つ一つの音を引き伸ばす声の技法に関心が寄せられる。後者は、叙事的性格の濃い物語を「語って」聞かせることが重視され、音の引き伸ばしは比較的少ない。

日本語とはいえ、数百年も前の言葉だ。しかも、「子音+母音」という日本語の特性から、音を引き伸ばして歌うと、母音が延々と続くことになる(これを「産み字」という)。現代の私たちにとって、そのヒアリングは至難の業というほかない。

もう一つの理由として、邦楽独特のゆったりとしたテンポやリズム、強弱感の稀薄さも挙げられる。ビート感が強く、メリハリが利いていて、テンポの速い音楽が好まれがちな現代において、人の呼吸をベースに形づくられる邦楽は捉えどころがない。歩くことが主な移動手段だった時代と、高速移動が可能な現代とのギャップとでも言えば良いだろうか。

こうした "捉えどころのない" イメージを代表する音楽の一つが「地歌」である。前述の分類では「歌い物」になる。あらゆる三味線音楽のなかで最初に誕生したジャンルだ。京阪の地を中心に、目の不自由な音楽家たちが創作・演奏・伝承を担い、極めて繊細な表現を発達させた。標準的な演奏スタイルは三弦(地歌での三味線の呼称)の弾き歌いで、一音一音丁寧に練るように紡ぎ出される三弦の響きが、絶妙な音空間を生み出し、しっとりとした声の表現を彩る。

彼らは筝曲も職業とした。当時の筝曲では器楽曲はわずかで、筝を弾きながら歌うスタイルが標準だった。 地歌と筝曲、この二つのジャンルはそれぞれに「組歌」という固有のレパートリーを確立するかたわら、三 弦の曲に筝を合奏させたり、筝曲として生まれた曲を三弦で演奏したりと密接な関係を育み、後には三弦と 筝の合奏を前提とした曲も生まれた。これらの音楽を「地歌筝曲」「筝曲地歌」というのは、こうした歴史的 背景があるからだ。

現代の演奏家もまた、その伝統と無縁ではない。プロの演奏家としては、三弦と筝の両方をマスターし、歌の習得も求められる。さらに、十七弦や二十五弦の筝など、二十世紀に考案された楽器を扱うシーンも増えている。

ところで、三弦と筝の組み合わせに尺八を加えたアンサンブルを「三曲合奏」という。古くは尺八ではなく胡弓が加わった例も少なくない。虚無僧による禅宗の音楽として誕生した尺八楽では、固有のレパートリーである「本曲」を尊重する一方で、三弦や筝との合奏を「外曲」と呼んで多彩なアレンジが工夫されてきた。今日では三弦と筝に、胡弓や尺八を加えた音楽領域をまとめて「三曲」と総称する。

三曲合奏は多くの場合、地歌(三弦)に筝のパートが加えられ、そこに尺八パートが付加されて成立してきた。 その背景の一つに、器楽への関心の高まりがあった。曲の途中にまとまった器楽的な間奏(手事)をもつ「手事物」では、三弦をベースに、筝や尺八が技巧を駆使して華やいだ雰囲気を増幅する「手事」でクライマックスを迎える。

これに対して「うた」の要素に比重がある「端歌物」では、三弦は声の旋律の骨格を示し、微妙なニュアンスに富んだ音色で彩りを添える。歌詞のイメージを象徴する手法も多い。筝や尺八は、控え目に歌と三弦に寄り添い、ムードを醸成する。

三弦も筝も撥弦楽器であり、その音はいわば点である。点と点をつなぐことでリズムや旋律のアウトラインを示し、歌を効果的に支える。それにメロディーを担当する尺八が加わることで、声の表現を補強し、各パートの個性を一層際立たせる。色合いの異なる楽器や声の個性を活かしながら、響きを重ね合わせることから生まれる色彩感は、三曲合奏ならではの魅力である。

Ⅱ. 平成 25 年度 事業記録

1 事業体制

◎主催団体:徳島県、公益財団法人徳島県文化振興財団

◎共催団体:財団法人地域創造

◎地域交流プログラム実施団体:海陽町、小松島市、吉野川市

◎実施日程: 平成 25 年 8 月 8 日 ~ 平成 25 年 12 月 1 日

◎ディレクター [主催団体の責任者]

岩朝 利治(公益財団法人徳島県文化振興財団 次長兼事業課長)

◎コーディネーター [地域創造の派遣する専門家]

<チーフコーディネーター>

児玉 真(地域創造プロデューサー、いわき芸術文化交流館アリオス チーフ プログラム オフィサー)

<担当コーディネーター>

谷垣内 和子(公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 実演芸術振興部 企画制作課長)

吉田 真由美 (公益財団法人日本伝統文化振興財団 理事・事務局長)

米澤 浩 (邦楽演奏家、NPO法人日本音楽集団)

◎アドバイザー [地域創造の派遣する専門家]

山﨑 篤典(音楽・舞台プロデューサー)

◎演奏家

海陽町担当:横山佳世子 鎌田美穂子 平田 紀子 小松島市担当:岡村慎太郎 山形 光 黒田 静鏡 吉野川市担当:日吉 章吾 光原 大樹 田嶋 謙一

■プログラム一覧

◎研修プログラム

実施団体	内容	実施日	会 場
	全体研修会	8月 8日 (木)	あわぎんホール(徳島県郷土文化会館)(計 44 名)
公益財団法人徳島県文化振興財団	手法開発研修会		手法開発研修会:あわぎんホール モデルアウトリーチ:徳島市不動小学校(3回、計64名)

◎地域交流プログラム

実施団体	担当演奏家等	内 容	実施日	学校、ホール名	参加者数
	横山 佳世子	アウトリーチ①	10月10日(木)	海南小学校	45 名
	鎌田 美穂子	アウトリーチ②	10月10日(木)	海南小学校	44 名
海陽町	平田 紀子	アウトリーチ③	10月11日(金)	海部小学校	28 名
	<コーディネーター>	アウトリーチ④	10月11日(金)	宍喰小学校	47 名
	米澤 浩	ワークショップ	10月12日(土)	阿波海南文化村海南文化館	39 名
	岡村 慎太郎	アウトリーチ①	10月17日(木)	立江中学校	31 名
	山形 光	アウトリーチ②	10月17日(木)	立江小学校	33 名
小松島市	黒田 静鏡	アウトリーチ③	10月18日(金)	芝田小学校	37 名
	<コーディネーター>	アウトリーチ④	10月18日(金)	櫛渕小学校	20 名
	谷垣内 和子	ワークショップ	10月19日(土)	小松島市ミリカホール	20 名
	日吉 章吾	アウトリーチ①	10月31日(木)	市立川島中学校	26 名
	光原 大樹	アウトリーチ②	10月31日(木)	市立川島中学校	25 名
吉野川市	田嶋 謙一	アウトリーチ③	11月 1日(金)	鴨島小学校	38 名
	<コーディネーター>	アウトリーチ④	11月 1日(金)	鴨島小学校	37 名
	吉田 真由美	ワークショップ	11月 2日(土)	吉野川市鴨島公民館	25 名

- ・アウトリーチプログラム参加者数 475 名 (モデルアウトリーチ 64 名、地域交流プログラムアウトリーチ 411 名)
- ・ホールプログラム参加者数 84名(全てワークショップ)

◎総括公演プログラム

実施団体	内 容	実施日	会 場	入場者数
公益財団法人徳島県文化振興財団	総括公演	12月1日(日)	あわぎんホール (徳島県郷土文化会館)	150名

2 演奏家プロフィール

[海陽町担当]

○横山 佳世子

大阪府出身。10歳より沢井忠夫に師事。東京藝術大学邦楽科卒業後、同大学院修了。平成13年度大阪府舞台芸術奨励新人賞受賞。平成17年度文化庁新進芸術家国内研修制度研修員。平成20年度京都市芸術文化特別奨励者。(公財)日本伝統文化振興財団「第9回邦楽技能者オーディション」合格、ビクターよりCD「生田流箏曲 横山佳世子」発売。平成20年度文化庁芸術祭賞新人賞受賞。平成24年度文化庁芸術祭賞優秀賞受賞。平成24年度京都市芸術新人賞受賞。古典から近代および現代まで、幅広いジャンルと楽器のレパートリーを持ち、演奏活動と後進の育成を積極的に行う。現在、鳴門教育大学非常勤講師。沢井箏曲院教師。

◎鎌田 美穂子

横浜市出身。幼少より生田流筝曲宮城社大師範・山田ミサに師事。後に西陽子、中井智弥にも師事。東京藝術大学邦楽科卒業。2004 年宮城道雄記念コンクール秀位受賞、2006 年第 3 位受賞。横浜市鶴見区民文化センター・サルビアホールのレジデントアーティストに 2011 年から 3 期連続合格、同ホール主催のコンサートなどに出演。箏奏者として、「人・生」→「音・言葉」→「環・和」から「庭」を追求し、音のみに留まらず絵や映像も作成し、音と映像による公演も行う。生田流箏曲宮城社師範。宮城会、明絃会、森の会会員。「和楽器オーケストラあいおい」、「横浜市民広間演奏会」所属。

◎平田 紀子

大阪府出身。永田文子、深海さとみに師事。1994 年宮城会箏曲コンクール児童部第1位入賞。東京藝術大学邦楽科卒業。在学中に宮城賞、卒業時にアカンサス音楽賞・同声会賞受賞。2008 年宮城道雄記念コンクールで第1位入賞、第15回賢順記念全国箏曲コンクール銀賞および福岡県知事賞受賞。2011 年第18回賢順記念全国箏曲コンクール最高位「賢順賞」受賞。2012 年NHK Eテレ「にっぽんの芸能」に注目の若手邦楽演奏家として取り上げられ独奏で出演し、2013 年同番組のテーマ音楽収録に参加。古典曲の演奏に加え、現代音楽の演奏や新作初演に力を入れている。生田流箏曲宮城社教師。深海邦楽会、(公社)日本三曲協会、同声会、森の会会員。

[小松島市担当]

◎岡村 慎太郎

静岡県出身。地唄筝曲を佐野奈三江、上木康江に師事。胡弓を中井猛に師事。後に三味線組歌・筝組歌を菊藤松雨に師事、2006 年両巻伝授。東京藝術大学邦楽科卒業。在学中に宮中桃華楽堂で御前演奏。同大学院修了。タイ公演、フランス公演に参加。1999 年第 34 回宮城会箏曲コンクール第 1 位、第 6 回賢順記念全国箏曲コンクール奨励賞受賞。2000 年中国大連公演に参加。2002 年スペイン公演に参加。平成 16 年度文化庁新進芸術家国内研修制度研修員。(公財) 日本伝統文化振興財団「第 11 回邦楽技能者オーディション」合格、ビクターより C D 「地歌箏曲 岡村慎太郎」発売。2013 年八橋検校菩提寺の常光院において献奏に参加。宮城会、(公社) 日本三曲協会、生田流協会、箏組歌会会員。

○山形 光

大阪府出身。幼少の頃より生田流箏曲宮城社大師範・田中佐久子に師事。後に箏・三絃を宮城社大師範・矢﨑明子に師事。東京藝術大学邦楽 科卒業。現在、東京・大阪を中心に演奏会・ライブ・ワークショップなどで活動。生田流箏曲宮城社教師。森の会、若水会会員。「和楽器オーケストラあいおい」所属。

○黒田 静鏡

東京都出身。人間国宝・青木鈴慕、青木彰時に師事。早稲田大学卒業後、東京藝術大学邦楽科卒業、同大学院修了。ローラン・テシュネ率いる古楽器×和楽器の現代音楽オーケストラ「アンサンブル室町」メンバーとして、権代敦彦、末吉保雄、アラン・モエーヌ、エディット・ルジェ他、数々の新作初演に携わっている。矢野顕子(ピアノ)、町田良夫(スティールパン)、董金明(二胡)などとも共演し、ジャンルを横断する演奏活動を行う。自作曲を用いての映像、舞踊とのコラボレーションや、様々なシチュエーションでの即興演奏を行い、古典と同時に、現代における尺八の可能性を精力的に追求している。(公社)日本三曲協会、琴古流協会、鈴慕会、足立区三曲協会、文京区三曲協会会員。「邦楽四重奏団」所属。

[吉野川市担当]

でよし しょうご ○日告 章吾

静岡県出身。生田流箏曲正絃社大師範・三木千鶴、宮城社大師範・金津千重子、胡弓を高橋翠秋に師事。東京藝術大学邦楽科卒業。在学中に安宅賞受賞。同大学院修了。修了時に大学院アカンサス音楽賞受賞。第15回全国小中学生箏曲コンクール最優秀賞「牧本賞」受賞。第13回全国高校生邦楽コンクール最優秀賞「市長賞」およびリスナー賞受賞。アイスランドの首都レイキャビックで行われた日氷交流事業「101tokyo」に参加。古典作品に造詣を深める一方、邦楽と他の分野との接点を見つめ、現代における古典のあり方、次代につながる邦楽とは何かを模索している。生田流箏曲正絃社准師範。千鶴の会、森の会会員。重音会会友。「アンサンブル室町」所属。

◎光原 大樹

広島県出身。幼少の頃より生田流箏曲の手ほどきを受ける。東京藝術大学邦楽科卒業。在学中、安藤政輝、大浦美紀子、森千恵子、深海さとみ、下平波留美、伊藤まなみに師事。2008 年および 2010 年地元広島にて「光原大樹 箏・三絃リサイタル」開催。 現在、主に広島・東京で活動中。中国新聞文化センター興銀ビル教室、東広島能力開発センター、山陽女学園箏曲部各講師。森の会、同声会広島県支部会員。

◎田嶋 謙一

大阪府出身。12歳より尺八を始め、父である直簫田嶋流(じきしょうたじまりゅう)尺八宗家・田嶋直士(たじまただし)に師事。東京藝術大学邦楽科卒業。2009 年~2012 年東京藝術大学助手。日本各地および海外で古典を中心とした数々のリサイタル・招待演奏を行う。その他にもジャズ・クラシック・ポップス等様々なジャンルの音楽とコラボレート、東京藝術大学や立正大学などの教育機関および各種イベントの尺八に関する特別講義、演奏会企画、舞台での音楽監督など、尺八の可能性を広げるべく多方面にわたり活動している。「田嶋謙一オルケストラ」主宰。NPO法人邦楽普及協会理事。「和楽器オーケストラあいおい」所属。

③ 平成 25 年度邦楽地域活性化事業全体スケジュール

項目		- 25 年度 (徳島県) 施スケジュール	出席者
<演奏家面談会>	201	3年2月22日	候補演奏家、県ディレクター、 チーフコーディネーター、 地域創造担当者
<コーディネーター会議> 内容: ・本年度の事業体制について (演奏家のチーム編成および担当地域、 担当コーディネーターなど) ・地域交流プログラム実施団体の調整状況 ・今後のスケジュール ・各プログラム内容について	20)13 年5月9日	県ディレクター、ホール担当者、 チーフコーディネーター、コーディネーター、 アドバイザー、 地域創造担当者
<演奏家への事業説明会> 内容: ・自己紹介 ・事業の体制、進め方について ・各プログラム内容について ・事務説明(諸手続等について)	201	13 年7月 16 日	演奏家、 県ディレクター、ホール担当者、 チーフコーディネーター、コーディネーター、 アドバイザー、 地域創造担当者
<全体研修会> ※現地下見も含む 内容:8月8日 ・平成25年度事業の概要について ・チーフコーディネーターレクチャー ・事業のイメージについて (OB演奏家によるORデモンストレーション) ・コーディネーター座談会 ・実施団体担当者の実務について 内容:8月9日 ・学校と市町ホールの下見、打合せ	2013年8月8日~9日		チーフコーディネーター、コーディネーター、アドバイザー、県ディレクター、ホール担当者、演奏家、市町ホール担当者、学校関係者、県内邦楽関係者ほか外部参加者(研修会のみ)、地域創造担当者
	横山チーム	2013年9月11日	演奏家、
<チーム会議> 内容:地域交流プログラム案の作成	岡村チーム	2013年9月 3日	コーディネーター、 1 地域創造担当者
	日告チーム	2013年9月 5日	2008/2011
<手法開発研修会> 内容: 開講式、地域交流プログラム手法開発 ワークショップ、チームミーティング、 総括公演打合せ、ランスルー(通し稽古)、 モデルアウトリーチ、閉講式、交流会	2013 年	59月22日∼25日	演奏家、 チーフコーディネーター、コーディネーター、 アドバイザー、 県ディレクター、ホール担当者、 市町ホール担当者、学校関係者、 地域創造担当者
	横山チーム(海陽町)	2013年10月10日 2013年10月11日 ②2013年10月12日	演奏家、
<地域交流プログラム> 内容:アウトリーチプログラム(学校:4クラス) ◎ホールプログラム(ワークショップ)	岡村チーム (小松島市)	2013年10月17日 2013年10月18日 ②2013年10月19日	コーディネーター、 県ディレクター、ホール担当者、 市町ホール担当者、学校関係者、
	日告チーム (吉野川市)	2013年10月31日 2013年11月1日 ②2013年11月2日	† 地域創造担当者
<総括公演プログラム> 内容:参加演奏家全組によるガラ・コンサート	2013年11月30日(リハーサル) 2013年12月1日(本番)		演奏家、 県ディレクター、ホール担当者、 チーフコーディネーター、コーディネーター、 アドバイザー、 地域創造担当者
<総括会議> 内容:事業内容の検証(評価と提案)	20	14年1月8日	県ディレクター、ホール担当者、 チーフコーディネーター、コーディネーター、 アドバイザー、 地域創造担当者

4 全体研修会

全体研修会は、ホール担当者、行政担当者、アウトリーチ先の学校関係者と、コーディネーター、 演奏家等、事業の関係者が全員集まって行うキックオフミーティングです。

今年度は、事業の関係者のみならず、邦楽分野のアウトリーチ・ワークショップ事業などに関心の ある公共ホールや文化行政担当者、地域の邦楽関係者にも参加を募り、手法開発研修会や総括公演プログラムの会場となるあわぎんホール(徳島県郷土文化会館)で行われました。

研修会の内容は、本事業の趣旨や流れ、準備作業内容の確認のほか、チーフコーディネーターの児 玉真さんによるレクチャー、前年度参加演奏家によるアウトリーチデモンストレーション、本事業に 参加するコーディネーターの座談会で構成されました。

邦楽のアウトリーチやワークショップの可能性についての理論的な講義の後は、参加者を生徒に見立てたアウトリーチデモンストレーションで、アウトリーチの具体的なイメージをつかみました。

また、本事業に参加するコーディネーターによる各プログラムの意義や取り組み方、その効果など 実践的な話により、参加者はアウトリーチや本事業への理解をより深めました。

- **1 日 時** 平成 25 年 8 月 8 日 (木) 13:00 ~ 17:00
- 2 会場 あわぎんホール (徳島県郷土文化会館) 小ホール
- 3 出席者 徳島県文化振興財団7人、徳島県1人、市町ホール担当者4人、学校関係者8人、 演奏家8人、チーフコーディネーター1人、コーディネーター3人、アドバイザー1人、 地域創造3人、県内邦楽関係者ほか外部参加者8人
- 4 スケジュール
 - ◎ 13:00 ~ 14:15 第一部
 - 1. 主催者挨拶 公益財団法人徳島県文化振興財団理事長 真木和茂
 - 2. 事業概要説明 地域創造特別専門職員 布施知範
 - 3. チーフコーディネーターレクチャー 地域創造プロデューサー 児玉真
 - ◎ 14:30~17:00 第二部
 - 4. アウトリーチデモンストレーション 平成24年度参加演奏家:朝香麻美子、佐々木千香能、小間夕起子(山田流箏曲)
 - 5. 質疑応答など
 - 6. コーディネーター座談会
 - 7. 実施団体担当者実務説明 地域創造特別専門職員 布施知範



アウトリーチデモンストレーション



コーディネーター座談会

5 現地下見

現地下見は、ホール担当者と演奏家、コーディネーターが、手法開発研修会での地域交流プログラムの内容づくりに向けて、すべてのアウトリーチ実施校と市町村等ホールの視察と現地打合せを行うものです。

学校下見では、演奏家とコーディネーターが教室の広さや使える設備を最終確認するとともに、学校関係者との現地打合せを行います。また、ホール下見では、コンサート会場については舞台関係や進行の確認を、ワークショップ会場については広さにあわせて体験用の楽器の数や参加人数の上限などを決め、手法開発研修会でのプログラムづくりに反映させます。

今年度の現地下見は、全体研修会の翌日にスケジュールを組み、できるだけ多くの演奏家が参加できるようにすることで、担当する市町での地域交流プログラムのイメージ共有に努めました。

◎海陽町

·8月9日··· 宍喰小学校 海南小学校 海部小学校 阿波海南文化村 海南文化館

◎小松島市

・8月9日… 立江小学校 立江中学校 櫛渕小学校 芝田小学校 小松島市ミリカホール

◎吉野川市

・8月9日… 鴨島小学校 市立川島中学校 吉野川市鴨島公民館



音楽室の確認(海陽町)



ホールの確認 (吉野川市)



ホールの確認(海陽町)



打合せ (小松島市)

6 手法開発研修会

手法開発研修会は、コーディネーターと演奏家がホール担当者と共に、地域交流プログラムの内容について、現地下見で確認した市町村等ホールや学校の状況とニーズを踏まえ、合宿形式で集中的にプログラムづくりを行うものです。

今年度は3泊4日の日程で、あわぎんホール (徳島県郷土文化会館) を会場に実施しました。

まず、演奏家とコーディネーターは、主催となる徳島県文化振興財団および地域交流プログラムの 実施団体となる3市町のホール担当者とともに、担当する市町ごとのチームに分かれ、地域交流プロ グラムで訪れる小中学校でのアウトリーチの構成を緻密に練り上げる作業を行いました。中間発表や ランスルーでは、関係者全員で意見を出し合い、内容をブラッシュアップしました。

最終日には徳島市内の不動小学校でモデルアウトリーチを実施し、研修の成果を確かめました。

また今年度は、学校側の要望により、モデルアウトリーチ終了後、各学年を担当した演奏家による 筝の楽器体験が行われ、生徒は実際に箏に触れながらその音色を楽しみました。

- **1 日 時** 平成 25 年 9 月 22 日 (日) ~ 25 日 (水)
- 2 会場 あわぎんホール (徳島県郷土文化会館)
- 3 スケジュール

	1日目	2日目	3日目	4日目
	A:小ホール、B:練習室	(チーム別・3室)、C:大会議	室 にて実施	
8:00				不能力
9:00				不動小 アウトリーチ準備 - 8:20 ~ 9:20
10:00		TIT ble	e) TII ble	モデルアウトリーチ① 9:35 ~ 10:20
11:00		チーム研修 (B)	チーム研修 (B)	転換
12:00				モデルアウトリーチ② 11:35 ~ 12:20
		昼食	昼食	昼食
13:00	開講式& オリエンテーション	チーム研修	ランスルー準備	転換
14:00	(A) 楽器開梱・研修準備	(B) 中間発表①	ランスルー① 13:30 ~ 14:50	モデルアウトリーチ③ 13:45 ~ 14:30
	不叫叫" " " " " " " " " " " " " " " " " " "	$14:00 \approx 15:00$	(C)	
15:00		休憩 (30 分)	休憩 (20 分)	邦楽器体験 14:40 ~ 15:25
16:00		中間発表② 15:30 ~ 16:30 (B)	ランスルー② 15:10 ~ 16:30 (C)	撤収・移動
17:00	チーム研修 (B)	休憩(30 分)	休憩(20分)	万省会& 閉譜式
18:00		中間発表③ 17:00~18:00 (B)	ランスルー③ 16:50 ∼ 18:10 (C)	反省会&閉講式 16:45~17:45 (A) 楽器梱包・発送作業
10.00		休憩(30 分)	休憩(20 分)	解散
19:00	撤収	全体ミーティング (総括公演等) 18:30 ~ 19:30 (A)	チームミーティング 18:30 ~ 19:30 (B)	
20:00		撤収	撤収	_



研修の様子



ランスルーの様子



研修の様子



ランスルーの様子

【徳島市不動小学校モデルアウトリーチ】

実施日	場所	演奏家	時間	クラス	参加人数
		横山佳世子、鎌田美穂子、平田紀子	2 校時目	4年1組	19名
2013/9/25 (水)	図書室	岡村慎太郎、山形光、黒田静鏡	4 校時目	5年1組	22 名
		日吉章吾、光原大樹、田嶋謙一	5 校時目	6年1組	23 名



モデルアウトリーチ(不動小6年1組)



筝の楽器体験(不動小5年1組)

7 地域交流プログラム 海陽町

【アウトリーチプログラム】

海陽町のアウトリーチは、「キラキラねいろ」というテーマで、筝の多様な音色の世界を伝えるプログラムでした。まず、宮城道雄の『瀬音』で筝曲の情景描写について説明。続く二十五絃筝の独奏曲、伊福部昭の『琵琶行』では、演奏前に場面や時代背景、ストーリーを伝えました。曲間には、演奏家が小学生の頃の写真を映しながら、筝を始めたきっかけなど自身のエピソードを語り、一つの事を続けることの力を伝えました。最後に沢井

忠夫の『音、きら、』を披露。多彩な演奏技法や変 則的なリズムにより、音色が万華鏡のように変化 する様を、実際の万華鏡を覗いたときの映像と、 表現力に満ちた演奏で実感してもらいました。

担当ホール:阿波海南文化村海南文化館

担 当 者:森﨑忠憲、岡川忍

演 奏 家:横山佳世子、鎌田美穂子、平田紀子

コーディネーター:米澤浩

	アウトリーチ①	アウトリーチ②	アウトリーチ③	アウトリーチ④
日 時	10/10(木)3 校時目	10/10(木) 5 校時目	10/11(金)3校時目	10/11(金) 5 校時目
学校名	海南小学校	海南小学校	海部小学校	宍喰小学校
クラス	5年1・2組	6年1・2組	5・6年生	5・6年生
会 場	音楽室	音楽室	音楽室	音楽室
参加人数	45 人	44 人	28 人	47 人







【ホールプログラム (ワークショップ)】

ワークショップは、はじめて筝に触れる方を 対象に、筝のさまざまな音色を楽しんでもらうと いうテーマで実施。学校アウトリーチで筝に関心 を持った生徒も数多く来場し、フロアいっぱいに 敷き詰められた筝を2チーム交代制で体験しまし た。座り方から爪の当て方、基本奏法などを だ後、『音、きら、』のワンフレーズを練習。基本 だ後、『音、きら、』のワンフレーズを練習。を を 使って自分なりの弾き方を探しました。全員での 合奏では、楽器に歌声や手拍子も交えて、参加者

全員で筝の音色を楽しみました。最後は、講師によるミニコンサートを開催。プロによる演奏はもとより、曲のイメージに合わせた照明を駆使したステージは、筝の魅力を存分に伝えるものでした。

コース名:「箏きらら」~お箏の音色は万華響~

会 場:阿波海南文化村海南文化館

実 施 日:2013/10/12 (土) 時 間:13:30~15:30

参加者数:39人







7 地域交流プログラム 小松島市

【アウトリーチプログラム】

小松島市のアウトリーチは、「開眼!!古くて新しい地歌と三曲合奏の楽しさ♪」をテーマに、「地歌」と三味線・筝・尺八による三曲合奏の魅力を伝えました。最初に、宮城道雄作曲『春の海』で筝と尺八の構造や奏法を説明した後、阿波踊りの「ぞめき」を三味線で弾きながら岡村さんが登場。三人揃って『えび』という短い曲を弾き歌いで演奏しました。歌詞の面白さについて説明した後は、生徒も一緒に歌って三曲合奏を楽しく体験。続く『菊

の露』では、古典曲のアンサンブルの魅力と、失恋がテーマのこの曲の歌詞について鈴木春信の浮世絵を使って歌詞を解説し、生徒は登場人物の心情を感じながら地歌の世界を堪能しました。

担当ホール:小松島市ミリカホール 担 当 者:福井正弘、太田垣英輝

演 奏 家:岡村慎太郎、山形光、黒田静鏡

コーディネーター: 谷垣内和子

	アウトリーチ①	アウトリーチ②	アウトリーチ③	アウトリーチ④
日 時	10/17(木) 3 校時目	10/17(木) 5 校時目	10/18(金) 3校時目	10/18(金) 5 校時目
学校名	立江中学校	立江小学校	芝田小学校	櫛渕小学校
クラス	1・2年生	5・6年生	5・6年生	3~6年生
会 場	音楽室	音楽室	音楽室	音楽室
参加人数	31 人	33 人	37 人	20 人







【ホールプログラム (ワークショップ)】

ワークショップは、三味線・尺八・筝の3コース。 三味線と尺八のコースは演奏経験のある方、筝のコースは初心者を対象としました。筝は座り方や爪の当て方など基礎から学び、短時間で全員が『さくら』を完成。三味線は地歌の『黒髪』などを教材に弾き歌いにチャレンジ。講師の岡村さんが実演を交えながら一人一人丁寧に指導しました。尺八は古典本曲『恋慕流し』により、流派ごとの解釈の違いなども考察するハイレベルな内容。最後はステージ上で尺八の黒田さんによる『鹿の遠音』と、

講師三人による『菊の露』も披露され、参加者は邦 楽器の更なる魅力を体験しました。

コース名:(1)地歌の弾き歌いにチャレンジ

(2)琴古流本曲に触れてみよう

(3)はじめてのお箏~『さくら』を弾いてみよう

会場:小松島市ミリカホール

実 施 日:2013/10/19(土) 時 間:14:00~16:30

参加者数:20人







7 地域交流プログラム 吉野川市

【アウトリーチプログラム】

吉野川市アウトリーチは、「四季の音を聴こう」というテーマ。まずは宮城道雄の『春の海』で季節感と情景描写について説明。夏の『線香花火』では宮城道雄独特の、奏法を駆使した描写を紹介。秋は落葉の雰囲気を表現した尺八の古典本曲『下り葉(さがりは)』でお経の代わりだった尺八の歴史と、自然への畏怖を様々な奏法で表現する尺八本曲の魅力を伝えました。冬の宮城道雄作曲『水の変態』では、水が雨・雪・霰に変わる様子を表

現。生徒たちは明治時代の教科書に載っていた歌詞を当時の小学生の気分で音読しました。最後に南米の街角をイメージした池上眞吾作曲の『El salvador』で、最新の邦楽曲の魅力を伝えました。

担当ホール:吉野川市鴨島公民館

担 当 者:岸田浩二

演 奏 家:日吉章吾、光原大樹、田嶋謙一

コーディネーター: 吉田真由美

	アウトリーチ①	アウトリーチ②	アウトリーチ③	アウトリーチ④
日 時	10/31(木) 4 校時目	10/31(木)5 校時目	11/1(金) 4 校時目	11/1(金) 5 校時目
学校名	市立川島中学校	市立川島中学校	鴨島小学校	鴨島小学校
クラス	1 年 A 組	1年B組	6年1組	6年2組
会 場	音楽室	音楽室	音楽室	音楽室
参加人数	26 人	25 人	38 人	37 人







【ホールプログラム (ワークショップ)】

ワークショップは、徳島県出身の三木稔が童謡「かりかりわたれ」を編曲した『フライング』を教材に、初心者を対象として等と尺八の2コースで実施。まずは『春の海』で楽器を紹介。講師三人による模範演奏を聴いた後、各コースでの練習を開始しました。等は講師の日吉さんの手元をディスプレイに映しながら基礎練習をすすめ、楽譜を絃名で歌うなどして、短時間で基本的な奏法をマスター。さらに、ちらし爪やすくい爪など特殊な技法も覚えた後は、それぞれ好きな奏法で演奏を楽しみました。尺八は、講師

の田嶋さんが、正しい手のかたちや息の当て方など、 基礎から一人一人丁寧に指導。楽譜の読み方もこな し、最後の箏コース参加者との大合奏では、見事な 音色を披露しました。

コース名:お箏と尺八体験ワークショップ

会 場:吉野川市鴨島公民館 実 施 日:2013/11/2(土) 時 間:13:30~15:30

参加者数:25人







8 総括公演プログラム

総括公演プログラムとして、全演奏家があわぎんホール(徳島県郷土文化会館)に集結し、コンサートが開催されました。

「"わ"の音色でおもてなし」と銘打った本公演では、アウトリーチプログラムに関連する曲だけでなく、このコンサートのために準備した曲を加え、古典から現代まで、幅広い内容のプログラムとなりました。曲順もチームごとではなく、曲想に沿ったものとしたほか、フィナーレの参加演奏家全員による合同演奏などにより、コンサートとしての一体感を出すことも意識しました。

合同演奏では、徳島県出身のポップスアーティストが作曲した『HOME』(アンジェラ・アキ)と『ハナノユメ』(チャットモンチー)を、地元の作曲家・増田篤志氏があらたに邦楽器用に編曲し披露しました。 選曲にあたっては、徳島県文化振興財団が、県内の邦楽愛好家の皆様にも演奏していただける曲を、というコンセプトを設定し、事前に作曲家と打合せを行い決定しました。演奏家達は手法開発研修会で作曲家とのミーティングを行い、東京と現地で2回の合同練習を行った上で本番に望みました。

耳馴染みのよい軽快なメロディーを邦楽器が奏でることにより、邦楽というジャンルや演奏家により親しみやすさが感じられ、演奏後は観客からの拍手に演奏家が手を振って応えるといった和やかな雰囲気に包まれてのフィナーレとなりました。

【邦楽コンサート】

日 時 平成 25 年 12 月 1 日 (日) 14 時開演

場 所 あわぎんホール (徳島県郷土文化会館) 1 階ホール (設定席数 540 名)

演奏家 横山佳世子、鎌田美穂子、平田紀子 岡村慎太郎、山形光、黒田静鏡 日吉章吾、光原大樹、田嶋謙一 **来場者数** 150 名

主 催 徳島県、公益財団法人徳島県文化 振興財団

共 催 財団法人地域創造

※ P.38 資料参照 (チラシ、パンフレット)



『瀬音』



[El salvador]



『讃歌』



『音、きらゝ』



『詩曲一番』



『尾上の松』



『HOME ~ハナノユメ』

●ガラ・コンサートにおける合同演奏曲とホールオリジナルの作・編曲について

平成 25 年度アドバイザー 音楽・舞台プロデューサー (島根県立いわみ芸術劇場初代館長) 山崎 篤典

邦楽地域活性化事業ガラ・コンサートの定例となった合同演奏曲。もとはと言えば、平成 21 年度の「邦楽モデル事業」で演奏された寺嶋陸也氏作・編曲の「星の美しい村」から始まったものです。島根県立いわみ芸術劇場で開催されるガラ・コンサートの企画会議で「参加演奏家全員が一緒に演奏する曲がほしい」という意見が出されたとき、私の頭に浮かんだのがこの「星の美しい村」でした。これはいわみ芸術劇場の前身である石西県民文化会館で始めた「いわみ合唱塾」最初の委嘱合唱作品です。

いわみ合唱塾事業では寺嶋陸也氏への委嘱により、地域で愛される多くの合唱曲が誕生しましたが、特に「星の美しい村」は地域で愛唱曲化されつつあり、普遍的な詩で全国どこででも演奏されやすいこと、寺嶋陸 也氏が邦楽作品も多く手がけていることなどから選定したものです。

完成した楽譜では、もともとあった合唱部分の前に新たに邦楽の器楽部分が追加され、本番での9名の邦楽奏者の演奏と益田ジュニア合唱団(現グラントワ・ユースコール)の歌声とのハーモニーは、まさに天上世界を彷彿とさせるものでした。

その後、熊本県、埼玉県、千葉市、そして今回の徳島県で、それぞれ個性的な合同演奏曲が生まれました。 熊本では、地元在住作曲家光永浩一郎氏作曲の「日本の魂~九人の邦楽器奏者のための序・破・急~」が作 られました。邦楽の古典名曲をちりばめた15分超の大曲でした。埼玉は日本音楽集団の秋岸寛久氏作曲によ る「童謡ファンタジー」。埼玉県に縁のある童謡をパラフレーズ^(**) した作品で、すでに楽譜が出版され、今後 多くの邦楽団体のレパートリーになり得る作品です。千葉では、市民の愛着が深い成田為三の「浜辺の歌」を、 やはり地元作曲家の木村裕氏が邦楽編成に編曲しました。三味線や胡弓が効果的に取り入れられたパンチの効 いた曲になり、これもスタンダードになり得るでしょう。(※パラフレーズ:楽曲を自由に編曲すること。)

そして今回の徳島は、これも地元の作曲家増田篤志編曲の「HOME」と「ハナノユメ」。ともに徳島出身のアーティストによるポップスですが、16ビートのJーPOPを筝、十七弦、三味線、尺八の編成で演奏しました。公演後、会場にいた高校の邦楽部の生徒達が演奏したいと希望していたとのことです。こういったポップス作品の編曲は、若者向けのレパートリーを提供することにもつながります。

ところで、いわみ芸術劇場のように毎年作曲家に直接委嘱作品を依頼する例は少ないとは思いますが、それでも様々な場面で、ホールから作曲家に作曲や編曲を依頼することがあると思います。その際、実際にはどの程度手間がかかるか気になるところでありましょう。また、地元の作曲家や東京の著名な音楽家に依頼して新作が作られても、1回の演奏で終わってしまうことが多いことも課題です。そういったことを避けるためには、そのホールの立地する地域のニーズにあった作品を創ることが大切だと思います。

以下、ホールが作曲・編曲を依頼する場合の諸注意を述べてみます。

- ・曲の権利は作・編曲者に帰属し(オペラ・ミュージカルの脚本なども同様)、委嘱した側に版権はないため、 二度目以降の演奏時には著作権料が発生する。委嘱者による演奏の際の著作権料免除の取り決めなど、作・ 編曲者と委嘱者の間での事前の調整が重要。
- ・楽譜等に(刊行譜となる場合も含め)委嘱先名を記載してもらうように指定する。
- ・ホールが、地元音楽団体にあらたな作品を提供し、その後の事業での活用など、再演につなげるための 取り組み。
- ・地元作曲家などに正当な対価を支払うことで、人材育成に貢献するというスタンス。

委嘱する側(ホール、行政、実行委員会)にとってはハードルもありますが、ホール職員にとって、作・編曲者との打ち合わせやJASRAC等への対応を通じてのスキルアップや、曲を作るという創造活動に関わることによるモチベーションアップにつながることなど、メリットが多いことに気づかれると思います。

邦楽ジャンルに限らず新しい音楽作品をホールが提供できるなんて、すばらしいことだと思いませんか。

Ⅲ. 平成 25 年度 事業報告

1 主催団体報告

ディレクター

[公益財団法人徳島県文化振興財団次長兼事業課長 岩朝 利治]

徳島には阿波踊りのお囃子や人形浄瑠璃の三味線など邦楽器が使われる芸能活動が盛んである中、 当ホールは近年邦楽事業に重点を置き事業展開を実施している。今回の邦楽地域活性化事業は、今後 の自主事業の取り組みに大いに役立つ結果となった。

我々が平成23年度から実施している芸術家派遣のアウトリーチ事業では、ジャンルや実施校数が多いこともあって、内容を芸術家に任せっきりであった。しかし、今回のような演奏家との話し合いによりプログラムを創り上げていくことが如何に大事かをこの事業を通じて教わった。我々がコーディネートしていくには、邦楽の音楽的な基礎や楽器の構造などの知識を付けることはもとより、教育現場のことを知り子どもたちに興味を持たせるにはどういった手法が有効か……などのスキルアップが必要となる。時間は掛かるが、本事業のコーディネーターやアドバイザーの手法を参考にし、今後我々のアウトリーチ事業に活かしていくことがこの事業を終えた次のステップだと考えている。

手法開発研修会では、演奏家の思いにコーディネーターのアドバイスが加わり、ブラッシュアップを重ねていく作業が続き、両者の真剣な取り組みのおかげですばらしいプログラムに仕上がった。このプログラムを持って各地の学校に出向くのであるが、地域のホール担当者や学校の先生、県内の邦楽愛好家の協力で3地域9校3ワークショップとも成功裏に収めることが出来た。この事業に関係した各方面の方々には感謝してやまない。

一方で、最後のガラコンサートは集客に苦しんだ。本来アウトリーチ事業の集大成であるこのコンサートでは、実施校の生徒や教師に聴いてもらいたいところではあるが、その関係者の参加は数名であったのが残念である。可能であれば、最後はアウトリーチとは逆に授業の一環として、受講した生徒達にホールへ足を運んでもらいたいと思った。演奏家の技量が発揮できる環境の整った場所で、すばらしい邦楽演奏を聴くことにより、更に感動を与える機会を作ることが出来るはずで、教育委員会や学校側の理解を得る必要があるのでハードルは高いが、今後当ホールのアウトリーチ事業でチャレンジしてみる価値があると考えている。演奏家達が奏でる流れるような日本的旋律はクラシックにない魅力をもっており、コンサートとしてすばらしい内容であっただけに、今後はさらに多くの方々に聴いていただきたいと、決意を新たにするところである。

加えて、最後には本県出身のアーティストであるアンジェラ・アキとチャットモンチーのアレンジされた楽曲が全員合奏で行われた。本来、邦楽奏者は舞台で顔色を変えず演奏を行うが、この曲だけは表情も豊かに手を振るなど客席と一体となり和やかな雰囲気で幕を閉じた。

来場していた学生からいずれ学校の箏曲部でこの曲を演奏したい旨の問い合わせがあり、この邦楽 地域活性化事業の成果が今年度だけでなく、今後も地域に残っていくことのありがたさを感じた一面 である。

1 主催団体報告

担当者

[公益財団法人徳島県文化振興財団主査 日野 貴美子]

1. 事業全体に対する所感

近年、ホールにおける自主事業が減少し、また県内ホール間の関わりも少なくなっています。このような中、本事業は、演奏家、コーディネーター、地域創造、学校、県内邦楽関係者、ホール等多数の方々が関わりそれぞれの役割を相互に補完し、連携・協力しながら実施するものであることから、ホールにとって貴重な機会であったと思います。

また、事業に参加いただいた児童・生徒の皆様が邦楽の演奏に引き込まれる様子、邦楽器に興味を示す様子をみて、本物の邦楽に触れることの重要さを実感しました。

2. 邦楽事業実施にあたり、苦労した点

事業内容が、研修プログラム、地域交流プログラム及び総括公演プログラムで構成されており、すでにある枠組みの中で如何に地域の特性を出すことができるか、市町ホールや学校のニーズに合致したものになっているかを考えながら事業を実施しました。しかし、全体スケジュールが非常にタイトであること、多くの方が関わる事業であることから、事業の趣旨やそれぞれに求められる役割、各ホールの考え方等十分理解できないまま事業を実施したことが苦労した点であり反省点でもあります。

また、事業のメインであるワークショップやコンサートの開催時期が、まさに芸術文化行事が盛んに行われる時期と重なったため、集客に苦労しました。

3. 苦労したことを解決するにあたり、どのような工夫をしたか

事業全体としては多くの方が関わる事業であるため、特にスケジュール管理や情報共有に努めました。

また、事業を実施する上では、市町ホール担当者や学校関係者の方に積極的に関わっていただけるように努めるとともに、日頃から相互協力関係にある県内邦楽関係者の方にも事業に参加していただくなど、本事業に関わっていただける方を増やすことで事業の周知につながるよう努めました。

邦楽コンサートにおける広報については、若い世代の演奏家が出演することを踏まえ、中学生や高校生にも参加していただけるよう、学校邦楽部顧問宛に直接チラシを送付しました。これにより、教員の方から、「直接チラシを送付いただいたこと」と「学生が参加しやすい金額設定である」ことに対する感謝の言葉をいただきました。

4. 今回の邦楽事業に関わることで、どのような成果を感じたか

学習指導要領が改訂され、伝統や文化に関する教育の充実が求められ、和楽器の取扱が重視されています。このような状況の中、学校において和楽器の鑑賞にCDを用いている学校が大半でした。

このたびのアウトリーチは、児童・生徒が演奏家とより近い位置関係で鑑賞させていただいたことで、 邦楽器の音色の良さを知るだけでなく、演奏方法等に新たな発見もあり、興味・関心を持ってもらえ たと実感しています。それは、後日ホールで行われたワークショップの参加状況からみても明らかな 結果となりました。

また、邦楽コンサートは、観客数が少なかったことについて課題は残るものの、内容としては出演者と観客とが一体となったコンサートになりました。合わせて、合同演奏曲に県民に親しみを持ってもらえる曲を選曲できたことで、直後に高校生から「ぜひ演奏したいので、楽譜が欲しい」との申し出があったことも一つの成果であったと思います。

5. 今回の邦楽事業を受けての今後の事業展開や展望について

当財団において自主事業を展開する中で、効果的な広報手段が大きな課題となっています。単にチラシ配付するだけでは集客につながらず、公演を開催する前段階の取り組みも必要だと考えています。このたびの事業は、アウトリーチ~ワークショップ~コンサートと参加者の幅を学校から市町村民・県民へと広げていく枠組みでありました。この事業体型やこのたびの実績は今後の事業展開に大変参考となるものとなりました。

② チーフコーディネーター総評

[財団法人地域創造プロデューサー 児玉 真]

今年は地域創造が邦楽に取り組んでから5年目になる。徳島県は邦楽に関わる風土があり、あわぎんホールのネーミングライツ導入前の「郷土文化会館」と言う名前にも、その空気が窺える。事前の打ち合わせでも、県立の会館として戦略的に邦楽に取り組む契機にしたいという意欲が感じられたし、一年を通じて、あわぎんホールからのメッセージが明確だったという印象が残る。最後のガラコンサートでの舞台制作などはあわぎんホールの力を結集して見事だった。その意味で地域創造が4年間継続してきた考え方から生まれ、蓄積してきた様々な人脈とノウハウを提供しやすい環境をつくってくれていたのはたいへん幸運だった。また、演奏家もその期待に応えるべく良いものをつくるという意識が高く、途中、それ故の行き違いがあったりもしたけれども、最後には非常に手応えのあるパフォーマンスを行ってくれた。

日吉チームは、若い日吉さんが良い人選をした。チームとして3人それぞれが役割をはっきりと意識して全体の動きをフォローしあう姿勢が一番印象的である。子どもの目線では一番安定したアウトリーチになっていた感じがする。逆にそのまとまりの良さがインパクトを弱めるきらいもあって、アウトリーチの世界は本当に難しい。しかし、最後のワークショップには先生がアウトリーチに引き込まれていたことも手伝い、子どもたちが比較的多く来ていた。

岡村チームは、岡村さんがリードして地歌のアプローチの定番ともなり得るようなプレゼンテーションになっていたと思う。黒田さんや山形さんという若さをうまく活かしていたが、もうひとつ踏み込んだアイデアが出てくると飛躍的に良くなりそうな気配。ワークショップは来場者の年齢層が比較的高く、それ故お稽古っぽくなってしまった感じはある。

横山チームは、最初、横山さんの思いが強すぎて言葉に出来ない歯痒さのようなものをどう解決していくか、ということに意識がいっていた。しかし当初は、互いが遠慮をしていることによって、思いを伝えるパフォーマンスを下げていた。最終的にそれを解決したことにより、俄然良いアウトリーチになったようだ(この回だけは見に行けなかったのが残念)。

コーディネーターもそれぞれアイデアを前向きに考えてくれているのはミーティングなどでもとて も良くわかるし、5年間の経験が良い方向に蓄積されてきているのを感じる。

ディレクションのほうに関しても、少しずつ改善してきていると思う。けれども、年度はじめにあわぎんホールの担当者が異動で交代したことで、初段の動き、特に市町村や学校との連携の部分での意思疎通に関しては(例年のことではあるが)なかなか苦労されたのではないかと思う。こういうことは今後も有り得るので、対応できる構造をつくっておくことが望ましいだろう。アウトリーチやワークショップというのは音楽関係の事業の中でも実際に体験しないと感覚的に把握しにくい傾向があるので、8月の全体研修会まで暗中模索になり、特に学校と直接話をする市町村のホール担当者は、そこで明確に応えきれない可能性は否めない。翌年の開催地が早く決まっていれば、前年度の手法開発研修会に担当者を派遣してもらい、作り上げる過程を体験してもらうなどの工夫が必要かもしれない。ただ、果てしなく丁寧にやることは時間的にも経済的にも現実的だとは思えないし、地域創造があまりにも詳細に形式を定めてしまうのも、却って地域の個性を生かせなくなるという矛盾もありうる。現行の仕組みの中で改善していくことが必要だろう。

アウトリーチに関する事業については、演奏家サイドも、最初から目的に対する実感(ミッション 感覚)と、それを具現化する手法(ノウハウ)を持てているわけではないので(これは邦楽洋楽を問 わず同じである)、地域創造が中心となり、演奏家にそれを伝えて行かなくてはならない。また、地域に良い結果を残すためには、地域のコーディネーター(ホールの担当者)、コミュニティのリーダー(今回の場合で言えば学校の先生)を含めて、全方位で人材を育成していくことが求められる。単に演奏家をコミュニティに派遣すれば満足出来る結果が生まれるとは到底考えられない、ということを常に視野に入れておかないといけないだろう。その意味でこの事業は欲張りな企画なのであるが、結局、一番の解決策は、時間をかけ、良い現場を一緒に体験することでしかないのである。

今年でモデル実施から5年経過した邦楽地域活性化事業は定着してきているようにも思う。ただ、 今後継続していくためには、より考えられた構造をつくっておかないといけないかもしれない。考え るべきこともいくつかあるのではないか、と思うのでそれを重ねて書いておく。

1. 事業の構築に関すること

- ・さらに多くのコーディネーターの育成が必要
- ・演奏家の確保に関わる問題(推薦制の限界)
- ・ノウハウを獲得した演奏家の活動を拡げるためにどうしたらよいか(コーディネーターなど が個人的に行っている部分はあるが)
- ・おんかつアウトリーチフォーラム事業(洋楽)との関連性
- ・市町村のホールの事業継続にどう結びつけていけるか

2. アウトリーチやワークショップの内容に関すること

- ・プレゼンテーション手法の固定化
- ・演奏スタイルの広がりの限界

毎年、筝を中心とした3人の演奏家3組によって事業を行ってきたが、5年間続けてきたことで、コーディネーターには経験の蓄積がうまれ、一定のスタイルが出来つつあるようだ。ただ、演奏家の個性を活かして曲と話の内容を決めていくため、普遍的な手法をつくるという考え方とはやや隔たりがある。それでも、同じジャンルの継続はアウトリーチ内容が似たようなテイストになることは否めない。変化をつけ、より多様なプログラム作りをするためには、

- ①楽器編成や人数に変化をつける
- ②コーディネーターの手法に変化をつけ、幅広いスタイルを実験していく
- ことを検討していく必要があるだろう。

邦楽の事業は、特に教育(学校)の世界からの需要は高い。一方、熱意と実績のある徳島でも、それが公演の集客等に結びついていないという現実はある。邦楽の世界と公共ホールが、聴く喜びを感じられるひとを多く生み出していく運動が、遠回りでも必要だということだろう。

③ 地域交流プログラム報告 ①海陽町

海陽町担当コーディネーター

[邦楽演奏家、NPO 法人日本音楽集団 米澤 浩]

結論からになるが、横山・鎌田・平田三氏の演奏家が担当した海陽町での地域交流プログラムは期 待以上の成果を挙げ、これまで私が担当して来たチームの中でも屈指の成功例の一つとなった。

これまでもチームのベスト・プログラムを目指して模索しながらサポートして来たが、今回出色の感があるのは、このチームが《横山チーム》を超えて、《横山・海陽町チーム》となることが出来たからだろう。

実施した順と逆になるが、ホールプログラムのワークショップ(以下、WS)は独自性に富む内容であったし、海南文化館がご尽力下さったお蔭で準備したお箏の面数をはるかに超える海陽町の皆さんが参加して下さり、2グループでの入替制で実施するという嬉しい結果になった。

WSの内容は、参加者にアウトリーチ(以下、OR)プログラムの中心においた『音、きら、』(沢井忠夫作曲)のモチーフを使って箏を体験してもらい、その後にWSリーダー(演奏家)との合奏にチャレンジ、最後にはWSリーダーによる「ミニコンサート」で『音、きら、』他を聴いていただく内容であった。この「ミニコンサート」の舞台作りも海南文化館のご担当者が大変力を入れて下さり、「ミニ」と言ってしまっては申し訳ないほどの舞台であったことも付記させていただく。文字通り《横山・海陽町チーム》による成果である。

地域交流プログラムのもう一つの柱である O R は、4回実施したが回を重ねても緊張感を維持し、回を追う毎に完成度を高めて行けたことが印象的であった。

根本に立ち戻ってしまうが、ORとは何なのか?「出前授業」でなく何をするか?つまり、何を伝えるために演奏家がORの場に立つのか?等々、ORに対してのしっかりした考え方が邦楽界に浸透しているかと問われれば…答えを濁したくなる。

当然、邦楽界の若手・中堅演奏家の全てがそのノウハウを持っているはずもなく、ノウハウの構築から地域交流プログラム事業がスタートすることは否めない。今回も同様で、ORとは何なのか?からスタートせざるを得なかったが、これは無理もない。

地域の文化拠点であるホールが地域のプロとしてのノウハウ(ネットワーク等)を持ち、演奏家がORやWSのノウハウ(プログラム等)を持ち、この両者が相まって地域での交流プログラムが展開される、という認識を持っている邦楽界の若手・中堅演奏家は圧倒的に少ないだろう。(私の認識不足かもしれないが…)

横道に逸れるが、「邦楽地域活性化事業」が邦楽界の若手・中堅演奏家のORやWSに対しての意識を育てると言う副次的な効果は、この事業の大きな効果の一面だと思う。(個人的にこれほど嬉しいことは無い。)

話を元に戻すと、今回も同様でスタート時点ではORプログラムの完成イメージが演奏者にも見えていなかったし、「手法開発研修会」に入った段階でも茫漠としていたが、研修を経てプログラムのイメージが大きく展開して行き、このチームならではのORプログラム《キラキラねいろ》を作り上げた。その過程のなかで、海南文化館の方々の存在は大きく、文字通り演奏者と地域のプロが協働する《横山・海陽町チーム》が出来上がったことによる成果だと言える。

演奏家が「これを伝えたい」と確信に至り、その「メッセンジャー」となって「演奏家が持つ世界に初めて触れる聴衆(年齢は無関係)」と対峙する時、「どう伝えるか?」と言う手法の問題は非常に重要であり、演奏家がどのようなOR・WSプログラム(手法)を持つか?が事業の成否を左右するのは当然のことで、併せて今回の海陽町プログラムは、ホールの方々の存在が事業を成功に導く大きな存在であるという良い例であった。

今回の海陽町プログラムが、演奏者のOR・WSスキル構築においても大きな一歩になったことを 祈りたい。

③ 地域交流プログラム報告 ①海陽町

海陽町担当者

[阿波海南文化村海南文化館 森﨑 忠憲、岡川 忍]

1. 事業全体に対する所感

手法開発研修会でアウトリーチ・ワークショップを企画することで、どういった内容にするかというところから関係者全員で一緒に考えて取り組めたところが成功につながったと思います。みんなでやりたいことを一緒に考えていくと、自然とそのことに一生懸命になってしまうものなんだと実感しました。また、現地下見の際にも、関係者全員がコミュニケーションを図りながら、問題点等解決できたので、安心して本番を迎えることができました。

2. 邦楽事業実施にあたり、苦労した点

ワークショップに使用する箏の準備に戸惑いました。実際、この小さな町で箏を演奏する団体や関係者をあたってみても、貸し出しできる箏まで持っていない方がほとんどで、電話で知り合いの方を教えてもらいながら連絡をとったりしました。計画では30面用意するように企画したのですが、30面集まらず悪戦苦闘しました。

また、ワークショップの参加者が思うように集まらなかったことです。アウトリーチがワークショップの前日または前々日のため、学校でアウトリーチを受ける子どもたちのワークショップへの参加希望が取れませんでした。

3. 苦労したことを解決するにあたり、どのような工夫をしたか

ワークショップに使用する筝の準備ですが、徳島県文化振興財団に相談すると「他の市町のワークショップにも必要なので、合同でレンタルしましょう」と提案いただき、予算面でもたいへん助かりました。この時も、ホール同士の連携の大切さを実感しました。

また、ワークショップへの参加者募集も、学校の先生に最終的にお願いし、もう一度子どもたちに 趣旨を説明した上で声かけをお願いしました。その結果、募集定員を上回る参加者を募ることができ ました。

4. 今回の邦楽事業に関わることで、どのような成果を感じたか

普段あまり邦楽に関わりの少ない子どもたちに、アウトリーチやワークショップを通して演奏家の本物の演奏を聴いたり、触れてもらう機会を提供することができたことに感謝しています。

また、横のつながりが大切なんだと改めて実感しました。例えばホール同士であったり、学校の先生同士であったり、そこでいろいろな人に話してみることでアイデアが生まれたり、問題解決のきっかけになったりすることを学びました。

5. 今回の邦楽事業を受けての今後の事業展開や展望について

参加者のアンケートには、「楽しかった」や「もっとやってみたい」という声をたくさん頂きました。 今後は、邦楽をもっと身近なものにするため、アウトリーチやワークショップ等の地域交流プログラムを実施したいです。また、今回の邦楽事業で出会った演奏家をはじめ、スタッフの方々とのご縁を 大切にし、時にはアドバイスも頂きながら町内に根づかせたいと思います。

③ 地域交流プログラム報告 ②小松島市

小松島市担当コーディネーター [公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 谷垣内 和子]

徳島駅から JR 牟岐線で約 25 分。四国八十八箇所霊場 19 番札所立江寺の最寄駅の立江駅に着く。18 番札所恩山寺も近在する。この駅の半径約 4 km圏内にある 4 つの小中学校がアウトリーチの現場となった。田園から山間部にかけてのどかな風景が広がる。子どもたちは素直だが人見知り。来訪者は可能な限り受け入れ、生徒の心を揺さぶるように努めているとおっしゃった副校長の言葉が心に沁みる。

リーダーの岡村さんは宮城会所属。大阪菊筋の箏と三弦(地歌での三味線の呼称)の組歌伝授も受け、古典に軸足を置いた活動を行っている。箏の山形さんと尺八の黒田さんを加えた女性1:男性2の構成は、3種の楽器によるアンサンブル(三曲合奏)を視野に入れながら、ソフトな雰囲気づくりを狙ったものだ。

岡村さんは地歌の魅力を伝えたいと考えていた。三弦や筝を弾きながら歌う「うた」に焦点を当てる試みである。選んだのは端歌物の名曲「菊の露」。8分弱の短い曲と紹介したら、関係者から一斉に「どこが短いの!?」と言われたのが強烈だった。多様な専門家が関わるメリットを痛感した一コマだ。

地歌の端歌物は、短い歌詞の中に抒情性に満ちた世界を凝縮している。歌詞も隠喩や掛詞などを多用して深遠な情感を描く。このシンボリックな特性を、どのように子どもたちの心に届けるか。最も苦心した部分だ。オープニングは「春の海」。等と尺八の楽器説明を経て、阿波踊りの「ぞめき」を三弦で演奏しながら岡村さんが登場。これだけで子どもたちの気持ちはぐっと演奏家に近づく。徳島の子どもたちは和楽器や邦楽の声に自然に溶け込む。自ら三味線や囃子を学んでいたり、身近に阿波踊りの連に所属する人がいたり…。日常のなかに伝統が息づく地域文化の豊かさを感じた。

さらに、分かりやすい素材として、お目出度い気分の「えび」の一部を一緒に歌い、その体験を踏まえて、 小菊の咲く庭面で一人の女性が哀しみを湛えている情景をイメージさせ、そこに漂う心情に寄り添う。海老の 錦絵や春信の浮世絵を活用したのが功を奏した。さらに歌と三弦をベースに箏と尺八が重ねられ、より豊か な音の層を構築して行く様子を示すために、曲の進行に合わせて少しずつ音が増える演出を工夫。三曲合奏 の楽しさの体験に導いた。

学校環境はさまざまで、アウトリーチを複式学級方式で行った小規模校もあった。しかし、いずれの学校でも生徒たちは素直に反応し、確かな手応えを得ることが出来た。メンバーひとりひとりの個性とチームワークの良さに加えて、関係者の的確なサポートがあったからこそだ。これは、本事業の今までの蓄積と、それぞれの専門性を活かした役割分担がうまく機能した結果でもある。

また、今回の実践で、地歌の端歌物を軸にしたプログラムを構築できたことは特筆に値する。悲恋をテーマにしたものが多い歌詞の内容云々という懸念も無用だ。三曲合奏も、器楽以外のアプローチが有効であることが明らかになった。専門家として子どもたちに何を一番伝えたいのか、そのためにどのような方法が最適なのか。演奏家自身がしっかりと認識し、子どもたちと真摯に対峙することこそが、最も大切なポイントである。ところで、ホールプログラムでは、ホール空間を用いて3種の和楽器ワークショップを行った。舞台上に尺八、フロアで三弦と箏のコーナーを設け、進行状況を一望できる環境での取り組みである。

ミリカホールは保健センターに併設された施設で、保健福祉部の所管である。ホール側からは、新規顧客の開拓と従来の利用者に対する邦楽への興味関心の喚起という2つの方向性が提起された。折衷案として三弦と尺八は経験のある一般人を、箏は小中学生を対象とすることになった。

経験者へのワークショップは前例がないが、三弦は「弾き歌い」を、尺八は講師である黒田さんが所属する会派の「本曲」の演奏スタイルを学ぶ場とした。箏は少数ながらアウトリーチ実施校の生徒と先生が参加したほか、親子で楽しむ姿が見られた。集客には苦労されたようだが、学年に応じてチラシの表現を変えたり、保護者への働きかけを工夫したりしてくださった、ミリカホールスタッフの心配りが印象に残る。

他楽器の音が気になった参加者もいたという。しかし、全体の進行を演奏家同士が共有しながら、最後に発表を聞き合い、プロの実演鑑賞で終了するスタイルは、一つの事業のあり方として悪くないと思った。ただ、毎回、課題となるアウトリーチ実施校の生徒たちの動員には良い方策が見えてこない。参加者のターゲットをどのように考え、情報発信して行くか。今後も意識し続けなければならない問題だ。

③ 地域交流プログラム報告 ②小松島市

小松島市担当者

[小松島市ミリカホール 福井 正弘]

1. 事業全体に対する所感

この4月に配属になったばかりの新米ホール担当の私にとっては、一地域職員が初対面から温かく 迎え入れられ、丁寧で細かいサポートにより邦楽事業を進めさせていただけたことは、本当にありが たいことでした。今回の事業に対しては、「全ての関係者が共に成長できる、よく練られた、そして開 かれた事業」という印象を持ちました。

また、演奏家がアウトリーチに向かってプログラムを練り上げる手法開発研修会では、高い能力の演奏家が互いに切磋琢磨しながらさらに伸びていく姿を間近で見ることができて、感銘を受けるとともに、またとない機会を与えられたと感謝いたします。

徳島県と徳島県文化振興財団によるサポートもありがたいものでした。機材や人員が不足がちの市に対し、研修会の開催からワークショップでの楽器貸出まで、多方面でご助力、ご助言をいただけたことは幸いでした。

2. 邦楽事業実施にあたり、苦労した点

一番頭を悩ませたのは、ワークショップ参加者の募集広報です。

市の広報紙・ホームページに募集告知すること以外に、邦楽関係団体への直接アプローチと、アウトリーチ実施校への参加生徒の要請を行いました。

ただ終わってみると、市の広報による応募者はほんの数名と思われ、大部分が団体や学校を通じて知った方々でした。後に知人から「自分は知らなかった、知っていればぜひ参加した」とも言われました。 人前で演奏するわけでもなく個人の趣味として演奏している方に、どうしたら伝えられるか、そうした方々が相当数いらっしゃるのではないか、との印象を持ちました。

3. 苦労したことを解決するにあたり、どのような工夫をしたか

ワークショップについては、当初に方針として、筝を中学生以下の初心者・未経験者に、三味線(地歌の弾き歌い)と尺八を一般経験者に限定しましたので、筝は主にアウトリーチ実施校へ参加者を募ってもらうよう学校側に要請、また、三味線と尺八は邦楽関係団体を通じて募集しました。

特に筝は、募集チラシをアウトリーチ実施校の全校生徒へ配布しました。小学生に興味を持ってもらうために、低学年用と高学年用の2種類を作り、また、保護者の関心や理解とサポート(事前申込手続きや送り迎え、同伴など)を得られるよう、家族へのメッセージも添えました。

4. 今回の邦楽事業に関わることで、どのような成果を感じたか

アウトリーチにおいて、関係者全ての協力のもと、地歌と三曲合奏という、邦楽の中でも小中学生 にとっては特に馴染みが薄い音楽を身近に感じさせ、理解へ導いたことは大きな成果と思います。

ワークショップでは、三味線と尺八が一般経験者の参加であったため、20名足らずとはいえ県内 各所からの参集があり、次回、同様の呼びかけをすれば再び応えてくれる手ごたえを感じています。

5. 今回の邦楽事業を受けての今後の事業展開や展望について

担当者としては、ぜひ今後も邦楽事業を広げていきたいと思います。308名収容の小規模ホールですが、邦楽の公演には適した規模ともいえるようです。集客が課題ですが、今後も今回と同様のレベルと規模の事業が継続的に行えれば、参加者は増やせると考えています。

③ 地域交流プログラム報告 ③吉野川市

吉野川市担当コーディネーター [公益財団法人日本伝統文化振興財団 吉田 真由美]

「四季の音を聴こう」をテーマにアウトリーチ

吉野川市を担当したのは、日吉章吾さん(生田流筝曲)をリーダーに、光原大樹さん(生田流筝曲)、田嶋謙一さん(尺八)の男性3名。メンバーの平均年齢が20代と一番若いチームだったが、アウトリーチの目的をよくとらえ、子どもたちに邦楽の演奏を聴いてもらいたい、何かを感じてもらいたいと、真っ向から取り組んだ構成と演奏であった。その熱意は子どもたちにも十分伝わったものと思う。

子ども向けの題材をさがすよりも、自分たちの弾きたい曲(=聞かせたい曲)を軸にするほうがよいと方針を定め、9月初めのチーム会議では、レパートリーとして考えられる20曲以上を列挙して検討した。そこから日本の四季をテーマにして邦楽のさまざまな表現方法を伝えるという内容が決まり、9月下旬の手法開発研修会までには曲目もほぼ固まった。宮城道雄の箏曲3曲と尺八の古典本曲1曲で四季を扱い、さらに3人で合奏できる現代曲「El salvador」を選んだ。

チーム研修では楽器や曲目の説明、ホワイトボードや写真パネルを使う工夫など3人がそれぞれの持ち味を発揮して取り組み、中間発表やランスルーでは立ち位置や表情にいたるまで、さまざまなアドバイスをもらった。四季のテーマからは外れる「El salvador」はアンコール的な位置づけにすると決めて、流れもうまくできた。何度も合わせたこの曲は、総括公演では現代曲のプログラム第2部の幕開けとして強烈な印象を与えた。

音楽室では、いつもと様子が違うためか、聞いたことがある!という反応なのか、1曲目の「春の海」ではざわざわしていた子どもたちも、夏の「線香花火」、秋の「下り葉」、冬の「水の変態」と曲が進むうち、身を乗り出して全身で聴いている様子が見てとれた。

ワークショップの仕上げは筝と尺八の合奏

ワークショップの教材は徳島出身の作曲家、三木稔の小曲集から「フライング~『かりかりわたれ』を歌いながら~」を日吉さんが選んだ。わらべうたの素朴なメロディーだが、演奏家の箏と合奏すると映える曲である。ディスプレイで日吉さんの手のアップを映し出し、参加者はそれを見ながら短時間でしっかりと弾けるようになり、いろいろな技法で弾いてみる体験もした。尺八は別室で練習し、こちらもメロディーが吹けるまでになった。

仕上げに筝、尺八で合奏を楽しみ、参加者はそれぞれに達成感があったようだ。模範演奏と合奏の時間を除くと、楽器の練習時間は正味1時間。メニューを欲張らず、時間内でしっかり弾く(吹く)ことを目指したのがよかった。

結びに

事前準備が順調に進んだなかで唯一の気がかりは、鴨島公民館の熱心な呼びかけにもかかわらず、 ワークショップの申し込み数が伸びないことであった。秋の文化祭シーズンで、同種のイベントが重 なったという事情もあった。

対策として急遽、クラスのアウトリーチの後に演奏家と子どもたちが交流する時間をとり、ワークショップへの参加を呼びかけた。それが功を奏し、公民館が近い小学校からの参加者が増えて理想的な規模で実現できた。楽器を間近で見、演奏家と直接言葉を交わした交流の時間は、児童生徒にとって、また演奏家にとっても印象に残る貴重なものとなった。今回はケガの功名であったが、今後のアウトリーチにも取り入れることのできる手法ではないかと考える。

アウトリーチ先の鴨島小学校、市立川島中学校ともに、学校をあげてこの事業を歓迎し、学校生活に活かしたいという熱意が、下見で訪問したときから感じられ、たいへんありがたかった。徳島県文化振興財団の日野さんが辛抱づよく調整し、鴨島公民館の担当の岸田さんがいつも誠実に対応してくださったことに感謝する。お蔭で演奏家達は自分たちのやるべきことに専念し、よい成果につなげることができた。

③ 地域交流プログラム報告 ③吉野川市

吉野川市担当者

[吉野川市鴨島公民館 岸田 浩二]

1. 事業全体に対する所感

今回、邦楽地域活性化事業に参加し、事業全体を通して様々な良い経験ができました。普段は鴨島公民館に関わる業務を担当しているのですが、自分から館の外に出て研修会に参加したり、アウトリーチ実施校の先生と打合せや事業の説明をするなど、普段の業務とは違う経験をさせていただきました。また、多くの方々と交流できたことが、これからのより良い公民館活動へつながるきっかけになると感じています。

2. 邦楽事業実施にあたり、苦労した点

鴨島公民館でお箏と尺八のワークショップを開催するための参加者を集めることに苦労しました。 開催日が11月2日とイベントの多い秋の時期で、市内各地で多くのイベントが開催されていること もあり、広報誌での広報にもあまり反応がありませんでした。チラシを作成し各所に配布したり、公 民館に来られる方にも手配りでお渡しするなどしましたが、参加者の増加にはつながりませんでした。 今回のことで広報の仕方など再検討する必要があると感じました。

3. 苦労したことを解決するにあたり、どのような工夫をしたか

ワークショップの参加者が思いのほか集まらなかったので、邦楽に興味のある方々への声かけを実施してみました。地元のお箏の教室の先生に連絡をとり、「生徒にワークショップに参加してみませんか」とお願いしました。あいにく実施日が発表会の日と重なっていたためご参加はいただけませんでしたが、協力的なご対応に感謝しています。他にも邦楽のコンサートが開催される会場でチラシを配布していただくなどお願いしましたが、参加のお申し込みはありませんでした。最終的にはアウトリーチ実施校で演奏家の方々にワークショップの参加を呼びかけていただくことで、生徒や先生が参加してくれました。

4. 今回の邦楽事業に関わることで、どのような成果を感じたか

邦楽イベントを開催しても集客に苦労していますが、お箏や尺八の生の演奏を聴いたことのある方は少ないのではないでしょうか。アウトリーチやワークショップを通して、間近で生の演奏に触れた参加者の多くは興味を持つと同時に邦楽への認識も変わったと思います。この邦楽事業のように間近でお箏や尺八の演奏を多くの方に聴いてもらう機会を増やしていくことが、邦楽というジャンルの活性化につながるのではと感じています。演奏前と演奏後の参加者の反応を見て、知ってもらうことと参加してもらうことの重要性を感じ、そのためにやらなければいけないことを考えられるようになったことで、自分自身が成長できたように思います。

5. 今回の邦楽事業を受けての今後の事業展開や展望について

実際にお筝や尺八の生の演奏を聴き、邦楽のすばらしさを肌で感じることができました。今回の邦楽事業を単発のイベントで終わらすのではなく、継続的に開催していきたいと思っています。事業を開催するノウハウは今まで持っていませんでしたが、今回の経験で楽器の借り上げの相談先や運搬方法などいろいろ勉強させていただきました。徳島県文化振興財団の担当者の方には事業を通して様々なご提案や丁寧なご指導をいただき、開催までの準備の間、大変お世話になりました。今回得た事を活かすためにも継続的な事業展開を考え、地域の方々との連携を深めていきたいと思います。

4 参加者の声 ①全体研修会

<参加者の感想> 回答者数:13名

- 1. 研修会の内容はいかがでしたか。
 - (1)とても良かった

9名

(2)良かった

4名

(3) ふつう

0名

(4) 良くなかった

0名

- 3. 地域創造が行う「邦楽地域活性化事業」 のことを知っていましたか。
 - (1) 知っていた

0名

(2) 知らなかった

5名(外部参加者のみ)

4. 研修会の内容について(抜粋)

・演奏家の方々とコーディネーターの方が、演奏する子どもたちと自分達の演奏への思いを元に、 1時間の授業を組み立てて、伝統芸能である邦楽への子どもたちの興味・関心を高めてくれそう である。

2. 今回の研修会を、どのようにしてお知りに

(1) 徳島県文化振興財団からの案内

(2) 地域創造の広報誌『地域創造レター』

2名

2名

なりましたか。

(3) その他

でのご案内

- ・朝香チームのデモンストレーションがすばらしかった。「臼の声」全部聴きたかった。「のはらうた」が邦楽で演奏できるとは!?感動しました。邦楽地域活性化事業とはどんなものか、ほぼつかめたのが良かった。
- ・今まで思っていたアウトリーチ事業(ぼんやり)がしっかりとアウトリーチ事業について理解することができた。アウトリーチ事業の意義と熱意(どんなに大切にされているか)が伝わってきた。
- ・アウトリーチの考え方がわかった。実際に演奏が聴けたのも良かった。受け手側の準備と演奏者 との共通理解が重要であることがわかった。
- ・模擬授業あり、パネルディスカッションあり、盛りだくさんの内容で良かった。おかげで事業の 具体的なイメージができた。
- ・コーディネーターの方々のお話がとても参考になりました。
- ・デモンストレーション、本当に楽しかったです。プロの演奏家を目の前で見ることができた上に、 実際一緒に唄ったり、何とも贅沢なプログラムだと思いました。こんなすばらしい授業を体験す ることができて、この研修会に参加させていただけたことを感謝いたしております。

5. その他ご意見・感想(抜粋)

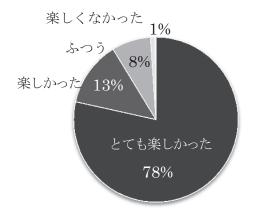
- ・工藤直子さんの「のはらうた」を演奏に取り入れていたが、子どもたちがよく知っている絵本を もとに同じようなことができたら、小学生にはとっつきやすくなる可能性があると思います。
- ・アウトリーチ事業の良さを活かすために、この全体研修会はとても大切だと思いました。アウトリーチ事業は2回目ですが、前回は担当(学校)者として、出張講座的にとらえていたけれど、そうではなく聴く耳を育てる、聴くための用意をする、本物を受け止める子どもたちを育てる貴重な45分にしなければという意欲(?)を持つことができました。ただ場所を提供する、聴くお客様状態ではなく、演奏家の方とつながれるような気がして、とても嬉しい&待ち遠しく思っています。
- ・邦楽を若い世代に広めていかなければならない思いが、当市でも課題になっています。私自身まだよくわからない点は多いですが、そのためのヒントを得られたことはとても貴重な時間であったと思います。
- ・これが1年で終わるのではなく、継続していくことを願っています。
- ・このようなすばらしい事業が何故徳島市内で行われないのでしょうか? 今期だけということもたいへんもったいないと思いました。
- ・手法開発研修会すばらしいですね。演奏家の方がパフォーマンスの仕方を工夫し、創り上げてい くことによって、演奏家の方も成長するところがすてきです。

4 参加者の声 ②地域交流プログラム

1. アウトリーチプログラム

<生徒の感想>

(1) 今日のアウトリーチコンサートは楽しかったですか。



回答者数:469名

- (2) 今日のアウトリーチコンサートで、よく わかったことや難しかったことは何ですか。
 - ①和楽器の名前やしくみについて



②和楽器の演奏方法について



③楽器の音色や響きについて



4演奏された曲について

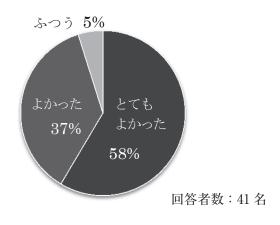


<生徒の感想>

- ・指の動きがとても速かった。演奏がとてもきれいで、テレビでも聴いたこともない音色だった。
- ・私は、筝なんてやったことがないけど、初めて見た人でもかっこいいと思えるような所にひとつ憧れました。すごく難しそうで「なんでこんなことができるんや!!」と思うところも多数あって、私も筝をやってみたいと思いました。三人の息が合った演奏だからこそステキな演奏になるんだと思いました。私ももっと音楽がスキになりました。
- ・等の弾き方にはいろいろな種類があるということがわかった。弾いている時に押さえたり叩いたりしていたのがびっくりした。等の数え方もわかったので良かったです。弾いている時がすごく格好良かったです。キラキラしていたと思いました。
- ・いろんな音色が音楽室に響きわたって、とてもうきうきしました。
- ・ 筆は、和やかでゆっくりな音しか演奏できないと思っていましたが、ハードなスピードでの演奏もあって格好良かった。
- ・3つの楽器で会話をしているようだった。
- ・歌をうたったのが楽しかった。いろんな楽器が知れて良かった。和楽器でいろんな響きがあった。
- ・お筝と尺八の息がピッタリだった。とてもきれいな音でした。大きさによって音が変わると知った。
- ・いろいろな楽器、いろいろな音が組み合わさってすごく迫力のある演奏だった。
- ・今日のコンサートでは和の音色について良くわかりました。とても透き通った水のような音色で、私 も弾いてみたくなりました。すごく迫力があって、また聴きたいです。
- ・尺八の音を聴くのは初めてだったので、演奏者が力を込めて演奏している姿にとても感激しました。

<先生の感想>

(1) 今日のアウトリーチコンサートに対す る子どもたちの反応はいかがでしたか。



(2) 子どもたちが、授業や学校行事の中で、 プロの演奏を生で聴く機会は、この 1年間にありましたか。



(3) 今日のようなアウトリーチの機会が あれば、取り組みたいですか。



<先生の感想>

- ・子どもたち、特に6年生の目の輝きが印象的でした。集中して学習に取り組むのが苦手な子も多いので、45分間聴けるのか心配していましたが、とても熱心に聴き入っていました。それほどすばらしい魅力的な内容だったのだと思います。6年生には、ぴったりの内容・演奏だったと思います。5年生は、まだ箏への興味が十分持てない子もいるので、短くて、子どもの知っている曲を1曲箏で演奏していただけたら、さらに良かったかなという気もしています。さすがしっかり練って時間をかけて作ってくださったプログラムだなと感心しました。参加できなかった先生に「良かった。感動した。」と何分間も興奮して話す子もいたそうです。
- ・子どもたちも真剣に、また興味深く聞けていたように思います。プロの演奏を聴けたことはもちろんのこと、奏者の箏への思いが聴けたことも子どもたちにとって良い刺激になったと思います。もう少し演奏を聴いていたかったです。
- ・演奏を聴いている子どもたちの目がキラキラしていて、いつも見ている子どもたちと違う表情を見れた。私自身も箏の演奏を初めて聴いたので、思っていた雰囲気と違いとても感動した。全校ではなく、5、6年生の少人数で音楽室でしていただいたことで、より集中して聴くことができて、すごく良かったと思う。こういう機会はとても貴重だし、プロの方から「ひとすじに」頑張ることのすばらしさなど、とても良い話をしていただき、子どもの心にも響くものがあったと思う。
- ・今の子どもたちにとって、このような楽器の音色、演奏を聴く機会は少なく、ましてや生で聴くことなどまず経験しないことなので、とてもいい機会を与えていただきありがたく思います。今は子どもたちには強い印象はなかったかもしれませんが、この先、生きていく中で、この経験がどれだけすばらしいものであったのか、じわじわとわかってきてくれると思います。
- ・本物の音を目の前で聴く体験は、子どもたちの心に届くものがありました。徐々に引き込まれてい く様子がはっきり見てとれました。
- ・等や尺八の音色を聴く機会がなかった子どもたちにとって、今回の演奏会は良い経験になったと思う。どんな反応をするのか楽しみでもあり、しっかり聴くことができるのか不安もあったが、表情を見ていると、イメージを頭の中で想像しながら味わっている様子があり、今後音楽に取り組むときにとても参考になったと思う。

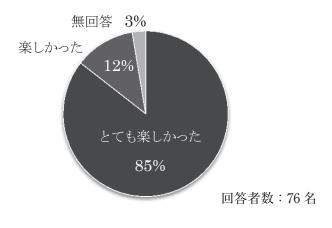
※主催団体が実施した参加者へのアンケートから一部を抜粋。

4 参加者の声 ②地域交流プログラム

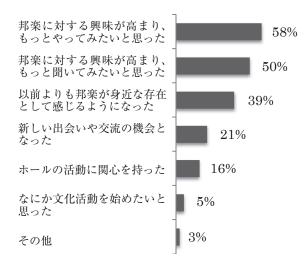
2. ホールプログラム

<参加者の感想>

(1) 本日のワークショップについて、ご感想をお聞かせください。



(2) 本日のワークショップに参加して、 どのようにお感じになりましたか。 (複数回答)



<参加者の感想>

- ・ 等を初めて触ったので、ちょっと難しかったです。 学校で聴いた「音、きら、」は、やっぱりきれいだったなぁと思いました。 またこのような機会があったら、また来たいと思いました。
- ・「音、きら、」の迫力がすごかったです。 3人は息がとても合って尊敬しました。私はバレーをしているので、3人みたいにチームワークを合わせてバレーを頑張りたいです(励ましてくれてありがとうございます。)。
- ・ 等は初めてでしたが、一度やってみたい思いから今回参加させていただきました。指導してくださった先生が初心者にもわかりやすく教えてくださり、楽しく参加できました。またしてみたいと思いました。
- ・今後もぜひ地歌の歌い方やってほしいし、今回すごくわかりやすかったです。
- ・伝統ある琴古流尺八の手法について大変勉強になりました。今後もこのような催しを開催いただけ れば幸いです。
- ・すごく筝のことが好きになった。また機会があれば筝を弾いてみたい。
- ・お筝を買って家でもやりたい。とても楽しかった。
- ・小学校で邦楽体験をさせていただいた子どもに誘われて伺いました。とても楽しかったです。ありがとうございました。子どもが楽しく音楽に興味を持ってくれたことに感謝します。
- ・尺八の音が出てうれしかった。説明もわかりやすく良かったです。

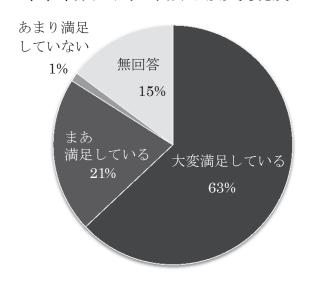
※主催団体が実施した参加者へのアンケートから一部を抜粋。

4 参加者の声 ③総括公演プログラム

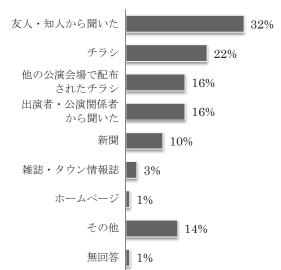
来場者数 150 名

回答者数 81 名 (回収率:54.0%)

(1) 本日のコンサートは、いかがでしたか。



(2) 本日のコンサート情報は、どのようにして お知りになりましたか。(複数回答)

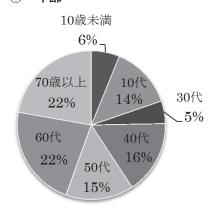


(3) また、邦楽の公演を鑑賞したいと思いますか。

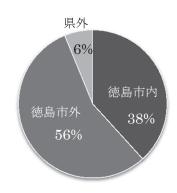


(4) 来場者内訳

① 年齢



② 居住地



(5) 感想(抜粋)

- ・「尾上の松」は古典のイメージをくつがえすような変幻自在の曲でした。宮城道雄の手付による筝がすごいのですが、お2人の唄も実に良かった。もちろん尺八も。堪能できました。他に「詩曲ー番」、「音、きら、」も良かった。
- ・「エルサルバドル」は今まで聴いたことなく、斬新でした。筝が和製ギター、ハープのような音色 になり興味深かったです。とても楽しかったです。もっとたくさんの方に観てもらいたいですね。 筝ってすごい楽器ですね。
- ・十七絃の美しい音色に聴き惚れました。子供の頃の筝の音をなつかしく思い出されました。
- ・癒される音色にうっとり・・・させていただきました。邦楽・・・日本人の魂を揺さぶるようなす てきな音楽でした。
- ・邦楽の奥の深さを味わうことができました。
- ・合同演奏とても良かった。
- ・邦楽でこんなに楽しい曲が・・・初めての経験です。
- ・高い技術できれいな音で感動しました。私も邦楽部で頑張っているので、出演しているみなさんのようにすばらしい演奏ができるように頑張っていきたいと思いました。
- ・ I 部・古典と II 部・現代曲とで、演出や雰囲気がゴロッと変えているのがとても良かったと思いました。照明であったり、立奏であったり、洋装であったり、演奏者の表情までもが異なるようでした。邦楽に関わる者として勉強になりました。
- ・全曲本当にすばらしかった。「讃歌」すばらしい技法、「音、きら、」三人の呼吸が合って表現が 何とも言えないほど伝わってきた。またぜひとも聴きたいです。
- ・未来の邦楽を担っていくすばらしい音楽でした。もっと多くの方に聴いてほしかったです。 頑張ってください。
- ・若い邦楽の担い手の方々のすばらしい演奏楽しませていただきました。こんなにすばらしいコンサートで、もっとお客さん入ってほしいなぁ。MCも良かったです。
- ・昔の音楽から現代音楽まで幅広い演奏を楽しませていただきました。
- ・邦楽ってこんなにきれいなんだと思いました。感動した!!!
- ・「尾上の松」は昔習ったことがあったので、なつかしく想い出しとても楽しかった。どれもすばら しい音色をお聴かせいただき、ありがとうございました。
- ・会場で邦楽を聴くのは初めてだが、大変良かった。もっと多くの人が知ってくれればと思った。
- ・等・三味線・尺八とても癒されて命の洗濯ができました。すばらしいコンサートありがとうございました。
- ・邦楽の可能性を感じました。
- ・表現力に感動!心にしみ入り響きました。
- ・10月に海陽町の文化館でのワークショップに行った時に、お箏に触れることができました。子供たちも初めて箏にさわり親しみをもって今日のコンサートに行きたいと言ってきました。箏といえば和の演奏というイメージがありましたが、ラテンの曲を聴いてびっくりしました。情熱的でとても良かったです。「HOME」の尺八も三味線も良かったです。涙がでそうでした。

※主催団体が実施した参加者へのアンケートから一部を抜粋。

●現代邦楽の父、宮城道雄 ~ 「春の海」は古典!?~

平成 25 年度コーディネーター 公益財団法人日本伝統文化振興財団 **吉田** 真由美

アウトリーチで小中学校の音楽室を訪ねると、だいたい後ろの壁に音楽史年表が掲げられている。肖像はヴィヴァルディ、バッハあたりから始まり、日本人作曲家は数少ないが、たいてい伝統音楽ではただ一人、和服姿の宮城道雄の写真が載っている。

宮城道雄は 1894 (明治 27) 年生まれ、1956 (昭和 31) 年没。今年 (2014 年) は生誕 120 年にあたる。 光を失った 8 歳のときから地歌筝曲の修業を積み、演奏家として活躍するとともに、14 歳から作曲を手がけ、 生涯に 350 以上の作品を残した。

その代表的な曲が筝と尺八による「春の海」で、徳島のアウトリーチでも、二つのチームが導入としてこの 曲を演奏した。現在、小学校6年生の鑑賞教材になっているが、お正月によく流れている邦楽の定番、古典の ようにとらえている人も多いだろう。しかし、1929(昭和4)年暮れに作曲された当初は、意外にもあまり 評判がよくなかったという。

従来の筝曲は、筝だけ、あるいは筝と三味線の演奏に、ときとして尺八を加えて合奏を楽しむというもの(三曲合奏)であった。ところが「春の海」は、筝だけでも尺八だけでも成り立たない、純粋な二重奏曲である。 これは当時の邦楽の常識では考えられない、斬新なものであった。

「春の海」が国内のみならず世界的に有名になったのは、この曲に感銘を受けたフランス人ヴァイオリニスト、ルネ・シュメーが尺八のパートをヴァイオリンに編曲し、演奏会やレコードで宮城と共演したことによる。邦楽の枠にとらわれずに評価されたこの曲が、現在では邦楽のもっとも有名な曲として演奏され、鑑賞されているのは興味深い。

当時は「新日本音楽」とよばれていた宮城道雄作品の前と後で、邦楽のあり方は劇的に変わったといっても 過言ではない。もとより宮城は、伝統的な地歌箏曲のきびしい修業を積んで演奏家となった(箏だけでなく三 味線の名手でもあった)。一方で、レコードなどを通して幅広く西洋音楽に親しみ、伝統的な邦楽にはない3 拍子や、ロンド形式・カノン形式を取り入れた曲、コンチェルトやカンタータの様式による作品と、新しい試 みをつぎつぎに発表している。

また、「水の変態」は箏組歌、「比良」は三曲合奏というように、古典の形式や技法をごく自然にとりいれているように見える作品でも、それまでの邦楽とはまったく違う独創性を発揮している。徳島の総括公演でも演奏された「尾上の松」は、歌と三味線による古典に宮城が箏の部分を作曲して加えたものである。新しい風を吹き込んだことによって、現代でもよく演奏される古典の人気曲となっている。

表現の広がりを求め、低音域を補うものとして宮城が開発した十七弦筝は、現在では合奏に欠かせない楽器となっている。そればかりでなく、後に続いた演奏家、作曲家の創作心を刺激し、独奏楽器としての可能性も大きく広がった。

古典を身につけたうえで新しい音楽も吸収し、数々の作品を発表することによって邦楽の未来を大きく開いたことが、「現代邦楽の父」といわれる由縁であろう。

宮城道雄の作品は演奏会でもよく取り上げられるので、ぜひ機会をとらえて聴いていただきたいが、CDとインターネットのサイトについて、次にいくつか紹介しておく。「春の海」の聞き比べも面白いが、ほかの曲もぜひ聴いてみていただきたい。

- ・CD 16 枚組「宮城道雄作品規範集成」(発売元:日本伝統文化振興財団 VZCG-8302) 現在でも演奏される機会の多い宮城道雄の作品をほぼ網羅している(約 130 曲収録)。
- ・CD2 枚組「春の海 大響演」(発売元:日本伝統文化振興財団 VZCG-8541) 宮城道雄自身を含め、歴代の8人の筝の名手と、尺八・ヴァイオリン・胡弓・フルート・ケーナとの合奏 から歌やオーケストラ付きまで、さまざまな編成による17編の「春の海」を収録。
- ・国立国会図書館デジタル化資料内の歴史的音源のサイト「れきおん」でも宮城道雄自身の演奏が聴ける。 http://rekion.dl.ndl.go.jp/
- ・宮城道雄公式ホームページ「宮城道雄の世界」 http://www.miyagikai.gr.jp/index.html

Ⅳ. 平成 25 年度 事業資料

【平成 25 年度邦楽地域活性化事業 総括公演 チラシ表面】



【平成 25 年度邦楽地域活性化事業 総括公演 チラシ裏面】

平成25年度邦楽地域活性化事業 主に シンナート

の音色でなり

《出演者プロフィール》



横山佳世子(生田流箏曲)

大阪府出身。10歳より沢井忠夫に師事。東京藝術大学卒業後、同大学 院修了、平成13年度大阪荷舞台芸術奨励新人賞受賞、平成17年度文件 伊戸新進芸術室間内所修制販売的低具、平成20年度京都井美術入学 別奨励者。(公財)日本伝統文化振興財団「第9回邦楽技能者オーディ ション16格、ピクターよりCD [1年出端寺画 横山佳世子]発売、平成20年 年度文化円芸術祭賞所人賞学、平成24年度文化干芸術祭賞研賞 受賞、平成24年度京都市芸術新人賞受賞。古典から近代および現代ま で、幅広いジャンル之楽器のレパートリーを持ち、演奏活動と逸進の育成 を積極的に行う現在、明門教育大学非常勤講師、沢井等組終教育師



鎌田美穂子(生田流箏曲)

横浜市出身。幼少より生田流宮城社大師範・山田ミサに師事。後に西陽子、中井智弥に6師事。2004年東京義精大学邦原科卒業。同年宮城道能記念コンクールを信受賞、2006年第2位受責、横浜市韓県区民文化センター・サルピアホールのレジデントアーティストに2011年か63期連続台格、同ホール主催のコンサートなどに出演、事奏者として、「人生」・「香・宮典」・「影・利」の「影・和」の大田さず結束や映像も作成し、音と映像による公演も行う。箏曲宮城社師範。宮城会、明絃会、森の会会員、「和楽器オーケストラあいおい」、「横浜市民広間演奏会」同郷。



平田紀子(生田流箏曲)

大阪府出身。永田文子、深海さとみに師事。1994年宮城会箏曲コンクール児童節羽(仏)賞、東京藝術大学卒業。在学中に宮城賞 李葉時にアカンサス音楽賞 同声会賞受賞。2008年宮城遺産総念コンクールの保証 [質領 現 2012年NH 医少日に近代 の芸術 2012年NH 医少日に近代 の芸術に対して対して対している。第2012年NH 医少十に近代 の芸術に対して対して対して対している。等面の演奏で加え、現代音楽の演奏を新作初演に力を入れている。等面で妹女教派、梁邦珠奏会、(公社 1月 王=曲後会 「司字会 森の会会員。



日吉章吾(生田流箏曲)

静岡県出身。生田流等曲正核社大師範・三木千鶴、宮城社大師範・金津 千重子、胡弓を高橋撃秋に節事。東京藝術大学卒業、在学生で安全賞 寛、同大学院を7、修下時にアルサイ名音楽賞を第、第15回を団小中学 生箏曲コンクール最優秀賞「存本賞」受賞。第13回全国高校生邦楽コン クール優優秀賞「持長賞」およびリスナー賞受賞。アイスランドの首都ノキ キャビックで行われた日米交流事業「101は6岁」に参加、吉典作品は 諸を寝める一方、邦楽と他の分野との検点を見つめ、現代における古典の あり方、次代につながら邦楽とは何かを模索している。生田流等曲正核社 准師範、千鶴の会、森の会会員、弗音会会友、「アンサンブル室町」所属。



光原大樹(生田流箏曲)

広島県出身。幼少の頃より生田流箏曲の手ほどきを受ける。東京藝術大学卒業。在学中、安藤政順、大浦美紀子、藤干恵下、深添さみ、下平波 電景、伊藤なみに師事、2008年および2010年地元広島にで大郎、 樹 箏 三絃リサイタル、川路進、現在、主に広島・東京で活動中、中国新 間文化センター興銀ビル教室、東広島能力開発センター、山陽女学園 筆曲部名書師。森の念、同声を広島県支部会員。



田嶋謙一(尺八)

12歳より尺八を始め、父である直離田明流(じぎしょうたじまりゅう)尺八 宗家、田嶋直士(たじまただし)に師事、2006年東京藝術大学井楽科及 パ専攻を卒業、2009年~2012年東京藝術大学助手、日本各地、 海外で古典を中心とした数々のリサイタル・招待演奏を行う。その他にも ジャズ、クラシック、ボッブス等様々なジャンルの音楽とコラボレー、東京 解析大学や立に大学などの教育機関及び各様、ベントの尺に関する 特別講義、演奏金企画、舞台での音楽監督など、尺八の可能性を広げ るべく多方面におたり活動している。[田嶋謙一オルケストラ]主宰。NP 〇法人邦楽養及協受理事、「相楽器オーケストラあいおい〕所属。



岡村慎太郎(生田流箏曲)

地明等曲を住野奈三江、上木康江に師事。胡弓を中井茲に師事。後に三昧継組歌・導 組歌を省藤佐和に師事。2006年両巻伝授、東京藤族大学卒業。任学中に宮中藤麻奕 空事前演奏。同学彩修下パンワイお本文代セジター建始(済まなプランス公 満に参加。1999年NHK・FM「邦楽のひととき」出演。同年第34回宮城会等曲コンク ール第16、第6回質領記会等曲コンクール奨励変賞。2000年中国大量次演参加。 2002年スペプン会等他二平成16年変化7年前進芸師原同停御制度研修、 財)日本伝統文化振興財団「第11回邦来技能者オーディション合格、ピクターよりCD 「知歌事画」同村版大郎「発売。2013年八橋検佐書港寺の常た際において演奏に 参加。宮城会、保険会、は分公(公社1日本三曲後会、年間後会、音報を会会。



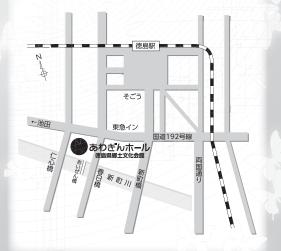
山形 光(生田流箏曲)

大阪府出身。幼少の頃より宮城社大師範・田中佐久子に師事。後に等-三絃を宮城社大師範・矢崎明子に師事、東京藝術大学卒業、現在、東 京・大阪を中心に演奏会・ライブ・ワークショップなどで活動。宮城社教 師。森の会、若水会会員。「和楽器オーケストラあいおい」所属。



黒田静鏡(尺八)

人間国宝・青木鈴馨、青木彰時に師事。東京藝術大学卒業後、同大学院 修了。ローラン・デシュネ率いる古楽器×和楽器の現代音楽オーケストラ 「アンサンブル室町月メンバーとして、権代教彦、末吉保雄、アラン・モエー ヌ、エディットルジェ他、数々の新作初演に携わっている。矢野顔子(ピア ノ)、町田良夫(スティールバン)、董金町(二朝)などとも共演し、ジャンル を横断する演奏が動金行う。目作曲を用いての映像、舞踊とのコーシール を横断を分成を動金行う。目作曲を用いての映像、舞踊との上 ションや、様々なシチュエーションでの即興演奏を行い、古典と同時に、現 代における尺への可能性を精力的に追求している。(公社)日本三曲協 会、琴古流像会、鈴簪会、足び三曲協会、文原区三曲協会会、参



あわぎんホール(徳島県郷土文化会館)

【お問い合わせ】

〒770-0835 德島県徳島市藍場町2丁目14番地 電話088-622-8121 受付時間8:30~17:30 http://www.kyoubun.or.jp/

【平成 25 年度邦楽地域活性化事業 総括公演 パンフレット P1】



【平成 25 年度邦楽地域活性化事業 総括公演 パンフレット P4】



《出演者プロフィール》



横山佳世子(生田流箏曲)

大阪府出身。10歳より沢井忠夫に師事。東京藝術大学卒業後、同大学院終了。平成13年度大阪府舞台芸術奨励新人賞受賞。平成17年度文 化庁新進芸術家国内研修制度研修員。平成20年度京都市芸術文化特 10.1 利風云雨水風了水陽町及州路県。「成20千皮水間川云南入し代列 別奨励者。(公財)日本伝統文化振興財団 第9回郷東技能者オーディ ション」合格、ピクターよりCD「生田流箏曲 横山佳世子」発売。平成20 年度文化庁芸術祭賞新人賞受賞。平成24年度文化庁芸術祭賞優秀賞 十段人に「云南宗真樹八員文員。「成と十段人に「云南宗真成为良 受賞。平成24年度京都市芸術新人賞受賞。古典から近代および現代ま で、幅広いジャンルと楽器のレパートリーを持ち、演奏活動と後進の育成 を積極的に行う。現在、鳴門教育大学非常動講師。沢井箏曲院教師。



鎌田美穂子(生田流箏曲)

横浜市出身。幼少より生田流箏曲宮城社大師範・山田ミサに師事。後に 西陽子、中井智弥にも師事。2004年東京藝術大学邦楽科卒業。同年宮 は時に、イナイ目がに5000年を2000年来が参照人子が来たけ来。明十日 城道雄記念コンクール秀位受賞、2006年第3位受賞。横浜市鶴見区民 文化センター・サルビアホールのレジデントアーティストに2011年から3 期連続合格、同ホール主催のコンサートなどに出演。箏奏者として、「人・ 生」→「音・言葉」→「環・和」から「庭」を追求し、音のみに留まらず絵や 映像も作成し、音と映像による公演も行う。生田流箏曲宮城社師範。宮 城会、明絃会、森の会会員。「和楽器オーケストラあいおい」、「横浜市民 広間演奏会」所属。



平田紀子(生田流箏曲)

大阪府出身。永田文子、深海さとみに師事。1994年宮城会箏曲コンクー ル児童部第1位入賞。東京藝術大学卒業。在学中に宮城賞、卒業時にアカンサス音楽賞・同声会賞受賞。2008年宮城道雄記念コンクールで第1位 入賞、第15回賢順記念全国箏曲コンクール銀賞および福岡県知事賞受 賞。2011年第18回賢順記念全国箏曲コンクール最高位「賢順賞」受賞。 2012年NHK Eテレ「にっぱんの芸能」に注目の若手邦楽演奏家として取 り上げられ沖秦で出演し、2013年同番組のテーマ音楽収録に参加、古典 カージャンス (1800年) 日報の (1800年) 日本 (



日吉章吾(生田流箏曲)

静岡県出身。生田流等曲正絃社大師節・三木千鶴。宮城社大師節・会津 千重子、胡弓を高橋翠秋に師事。東京藝術大学卒業。在学中に安宅賞受賞。同大学院修了。修了時にアカンサス音楽賞受賞。第15回全国小中学 生等曲コンクール最優秀賞「牧本賞」受賞。第13回全国高校生邦楽コンクール最優秀賞「市長賞」およびリスナー賞受賞。アイスランドの首都レイキャピックで行われた日外交流事業「101tokyo」に参加。古典作品に造 詣を深める一方、邦楽と他の労野・の接点を見つめ、現代における古典の あり方、次代につながる邦楽とは何かを模案している。生田流箏曲正絃社 准師範。千鶴の会、森の会会員。重音会会友。「アンサンブル室町」所属。



光原大樹(生田流箏曲)

広島県出身。幼少の頃より生田流箏曲の手ほどきを受ける。東京藝術大 学卒業。在学中、安藤政輝、大浦美紀子、森千恵子、深海さとみ、下平波 7千十米。北子下、大麻水は、八田スル・1米十 店、1水は時亡とか、1十では 留美、伊藤東なみに師事。2008年および2010年地元広島にて「光原大 樹 箏・三紋リサイクル」開催。現在、主に広島・東京で活動中。中国新聞 文化センター興銀ビル教室、東広島能力開発センター、山陽女学園箏曲 部各講師。森の会、同声会広島県支部会員。



田嶋謙一(尺八)

大阪府出身。12歳より尺八を始め、父である直簫田嶋流(じきしょうたじま りゅう)尺八宗家・田嶋直士(たじまただし)に師事。2006年東京藝術大学 邦楽科尺八専攻を卒業。2009年~2012年東京藝術大学助手。日本各 地、および海外で古典を中心とした数々のリサイタル・招待演奏を行う。そ の他にもジャズ、クラシック、ポップス等様々なジャンルの音楽とコラボレー ト、東京藝術大学や立正大学などの教育機関および各種イベントの尺八 「利用の に関する特別需義、演奏会で画、舞台での音楽監督など、尺八の可能性 を広げるべく多方面にわたり活動している。「田嶋謙一オルケストラ」主 率。NPO法人邦楽普及協会理事。「和楽器オーケストラあいおい」所属。



間村慎太郎(生田流箏曲)

静岡県出身。地唄箏曲を佐野奈三江、上木康江に師事。胡弓を中井猛に師 事。後に三味線組歌・箏組歌を菊藤松雨に師事、2006年両巻伝授。東京藝術 大学卒業。在学中に宮中桃華楽堂で御前演奏。同大学院修了。タイ公演、こ シス公演参加。1999年第34回宮城会箏曲コンクール第1位、第6回賢順記 全国箏曲コンクール奨励賞受賞。2000年中国大連公演参加。2002年スペ イン公演参加。平成16年度文化庁新進芸術家国内研修制度研修員。(公財) 日本伝統文化振興財団「第11回邦楽技能者オーディション」合格、ビクターよりCD「地歌箏曲 岡村慎太郎」発売。2013年八橋検校菩提寺の常光院にお いて献奏に参加。宮城会、(公社)日本三曲協会、生田流協会、箏組歌会会員。



山形 光(生田流箏曲)

大阪府出身。幼少の頃より生田流箏曲宮城社大師範・田中佐久子に師 いおい「所属。



くろだせいきょう 黒田静鏡(尺八)

東京都出身。人間国宝・青木鈴墓、青木彰時に師事。東京藝術大学卒業 後、同大学院修了。ローラン・テシュネ率いる古楽器×和楽器の現代音楽 オーケストラ「アンサンプル室町」メンバーとして、権代敦彦、末吉保雄、ア ラン・モエース、エディット・ルジェ他、数々の新作初演に携わっている。矢野 顕子(ピアノ)、町田良夫(スティールパン)、董金明(二胡)などとも共演し、 ジャンルを横断する演奏活動を行う。自作曲を用いての映像、舞踊とのコ ラボレーションや、様々なシチュエーションでの即風演奏を行い、古典と同 時に、現代における尺八の可能性を精力的に追求している。(公社)日本三曲協会、零古流協会、鈴慕会、足立区三曲協会、文京区三曲協会会員。

邦楽地域活性化事業/地域交流プログラムの記録

■内3市町(海陽町・小松島市・吉野川市)で木口の出演者がアウトリーチやワーク ショップを行い、地域の子どもたちに邦楽器の音色を届けました。

演奏家/横山佳世子 鎌田美穂子 平田紀子

10月10日 海南小学校 10月11日 海部小学校 宍喰小学校

10月12日 海南文化館

小松島市 演奏家/岡村慎太郎 山形 光 黒田静鏡

10月17日 立江中学校 立江小学校 10月18日 芝田小学校 櫛渕小学校

10月19日 小松島市ミリカホール

吉野川市 演奏家/日吉章吾 光原大樹 田嶋謙一

10月31日 市立川島中学校

11月1日 鴫島小学校 吉野川市鴨島公民館

あわぎんホール(徳島県郷土文化会館)

〒 770-0835 徳島県徳島市藍場町 2 丁目 14 番地 電話 088-622-8121 受付時間 8:30~17:30 http://www.kyoubun.or.jp/

阿波保行

【平成 25 年度邦楽地域活性化事業 総括公演 パンフレット P2】

徳島県と公益財団法人徳島県文化振興財団は、財団法人地域創造と共催で子どもたちに邦楽のすばらしさを伝えるために、 県内3市町(小松島市・吉野川市・海陽町)で「邦楽地域活性化事業」を行いました。

本日の邦楽コンサートは、本事業を実施した邦楽演奏家が一堂に会し、皆さまを「わの音色でおもてなし」いたします。 あわせて、このコンサートのために編曲した合同演奏曲もお楽しみください。

プログラム

第1部 -

瀬音 宮城道雄 作曲

筝/日吉章吾 十七絃/光原大樹

大正12年(1923)作曲の箏と十七絃の二重奏で、作曲者が8月中頃に群馬県を旅行した折、利根川のほとりで得た印象をもとにして作られました。箏の曲には珍しい三連音で急流の様子をあらわした後、ゆるやかな流れの筏流しを表現した舟唄風の中間部を経てまた急流に戻り、終曲となります。箏の技巧を最大限に用い、十七絃によって低音の効果を発揮させた曲です。

詩曲一番 松村禎三作曲 筝/日吉章吾 尺八/田嶋謙一

昭和45年(1970)に大阪で万国博覧会が開かれた際、松下電器館B棟の茶室で、お茶をたてるバックに効果音楽として使われるべく前年に作曲されました。 洋楽系の作曲家、松村禎三が初めて手がけた伝統楽器の作品であり、箏と尺八の二重奏で、同じ作曲家仲間の三木稔や演奏者の意見も大幅に取り入れて作られました。 ちなみに、あわぎんホールの設計者「西山夘三」は、松下電器館の設計者「丹下健三」 とともに大阪万国博覧会の総合プロデューサーを務めたという縁があります。

尾上の松 作者不詳 宮城道雄箏手付 三絃/岡村慎太郎 箏/山形光 尺八/黒田静鏡

九州に作者不詳の曲として伝承されていたこの曲に、宮城道雄がとても技巧を凝らした 箏の手付けをしたものです。播州加古川の尾上神社にある尾上の松の長寿にかけ、平 和な御世を喜ぶ祝儀の曲です。箏の手付けは宮城のもの以外にもいくつかありますが、 あまり演奏される機会はなくなっています。尺八の手付けも各流派にありますが、今回は 初代青木鈴慕手付けによる演奏です。歌の間にある合の手に龍笛を模したとても印象 的な手付けがなされています。こうして色々な人による手付けがなされてきているのは、 尾上の松という元々の曲にとても味力があるからだということでしょう。







第2部

El salvador 池上眞吾 作曲

筝/日吉章吾 十七絃/光原大樹 尺八/田嶋謙一

【平成 25 年度邦楽地域活性化事業 総括公演 パンフレット P3】

讃歌 沢井忠夫 作曲

筝/横山佳世子

現代邦楽の旗手として、宮城道雄(1894~1956)の遺した業績に継ぎ、箏の新たな可能性や領域を開拓した天才箏曲家・沢井忠夫(1937~97)が、41歳の1978年に作曲した箏独奏曲です。

59歳の若さで他界しましたが、画期的な作品を95曲も遺しており、その中でもこの曲は、流派や国境やジャンルを越えて人々から広く愛され続ける沢井作品の代表名曲の一つです。

作曲者はこの曲を以下のように解説しています。

「讃歌は、自然の美、人間の愛、そして芸術の深さに触れた時におこり、人の 内に昇華され、外に向かって溢れて、やがてそこに夢と詩が生まれる。」

音、きら、沢井忠夫作曲

筝I/平田紀子 筝II/鎌田美穂子 十七絃/横山佳世子

1991年に大阪の門下生・渡辺英代氏の委嘱により作曲・初演された三重奏です。作曲者が、子供の頃に魅了された万華鏡の鮮やかな色彩、思いもかけぬ図柄の変化、光の加減による色合いの変化などの思い出を題材に、54歳79曲目に創った3章からなる作品です。

冒頭は、筒を廻す時に出る微かな響きの印象を表していますが、曲全体を通じ、各パートのリズムの交差や、様々な技法による音色の彩は、万華鏡の世界を表現するだけではなく、無限なる箏の可能性や魅力を追求し続けた作曲者の箏への愛情と、遊び心満載の視点が現れているように思えます。



合同演奏 -

HOME アンジェラ・アキ アンジェラ・アキ 作曲/増田篤志 編曲

ハナノユメ チャットモンチー 橋本絵莉子 作曲/増田篤志 編曲

筝I/横山佳世子 平田紀子 山形 光

箏Ⅱ/日吉章吾 鎌田美穂子

十七絃/光原大樹

三絃/岡村慎太郎

尺八/田嶋謙一 黒田静鏡

合同演奏曲によせて

本日の出演者全員による合同演奏は、県民の皆様に親しみを持っていただけるよう、まずは徳島県出身のアーティスト、アンジェラ・アキさんの「HOME」を選曲しました。この曲には彼女の故郷徳島に対する特別な想いが込められています。その美しいメロディーを和楽器で表現できるよう編曲しました。

もう1曲は、チャットモンチーのメジャーデビュー・アルバムから「ハナノユメ」を選曲しました。若い女の子の心理を率直にテンポ良く語りかける名曲です。その独特の世界観を和楽器で演出するために、いくつかの工夫を施しております。お楽しみに。

また、これらの合同演奏曲は、本日のコンサートのみならず、県内の邦楽愛好家の皆様にも演奏していただけることを期待しています。



■編曲者プロフィール

ますだ あつし

増田篤志

四国大学短期大学部音楽科准教授。作曲を三木稔氏に師事。THE DOLL-邦楽合奏のために、著列呂(ボレロ)-邦楽合奏のために、
オスカイト独奏のための「祈り2011」、マリンパアンサンブルのための3章、阿波踊り体操などを作曲。日本ポピュラー音楽学会、日本民俗音楽学会会員。

平成 25 年度邦楽地域活性化事業 実施要綱

1 趣 旨

財団法人地域創造(以下「地域創造」という。)は、地域における芸術活動を担う人材の育成及び環境づくり、並びに日本の伝統音楽(以下「邦楽」という。)の継承発展に寄与し、併せて創造性豊かな地域づくりに資することを目的とし、都道府県等との共催により、公共ホール等を拠点とした、邦楽分野の演奏家(以下「演奏家」という。)による地域交流プログラム及び公演に関する事業を実施する。

2 対象団体等

(1) 対象団体

対象団体は、都道府県等とする。

都道府県等とは、次の団体をいう(以下「都道府県等」という。)

- ① 都道府県又は政令指定都市
- ② 地方自治法第244条の2第3項の規定に基づき指定管理者として指定を受け、都道府県又は政令指定都市の設置する公の施設の管理を行う法人その他の団体
- ③ 地域における文化・芸術活動の振興に資することを目的として設立された、公益法人制度改革 三法※による特例民法法人、公益財団法人等(②を除く。)のうち、都道府県又は政令指定都市 が資本金、基本金その他これらに準ずるものを出資している法人で地域創造が特に認めるもの
- ※ 「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」、「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」及び「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」
- (2) 地域交流プログラム実施団体

対象団体は、管内の市町村等より地域交流プログラムを実施する団体(以下「実施団体」という。) を選定する(原則として3団体)。ただし、対象団体が政令指定都市及び政令指定都市に係る上記(1)の②又は③に該当する場合は、地域創造と協議するものとする。

市町村等とは、次の団体をいう(以下「市町村等」という。)

- ① 市区町村(政令指定都市を除く。)
- ② 地方自治法第244条の2第3項の規定に基づき指定管理者として指定を受け、市区町村の設置する公の施設の管理を行う法人その他の団体
- ③ 地域における文化・芸術活動の振興に資することを目的として設立された、公益法人制度改革三法による特例民法法人、公益財団法人等(②を除く。)のうち、市区町村が資本金、基本金その他これらに準ずるものを出資している法人で地域創造が特に認めるもの

3 事業内容

- (1) 研修プログラム
 - ① 全体研修会

対象団体は、実施団体の職員を対象に、邦楽分野による地域交流プログラム及び公演の企画・ 制作に必要な実践的ノウハウを取得するための研修会を開催する(原則として1回)。

なお、当該研修会において管内の文化行政担当者、公共ホール職員及び教育関係者向けのシンポジウム等を開催することができるものとする。

② 手法開発研修会

対象団体は、地域創造と協力して、対象団体及び実施団体の職員並びに演奏家を対象に、地域交流プログラム等に関する手法開発を目的とする研修会を開催する(4日間の連続した日程で1回)。

また、対象団体は、当該研修会において対象団体が選定した学校でアウトリーチ実地研修を 実施する。

(2) 地域交流プログラム

実施団体は、原則として3日間の連続した日程で次のプログラムを実施する。

また、実施団体は、地域交流プログラムの実施に向けて、演奏家、コーディネーター及び対象 団体等による現地下見(個別研修)を実施する(原則として1回)。

① アウトリーチプログラム

学校等でのミニコンサート等により、地域との交流を図るプログラム (原則として1団体 4回)。

② ホールプログラム

公共ホール等において開催するコンサート又はワークショップ等により、地域との交流を図るプログラム(原則として1団体1回)。

なお、ホールプログラムにおいてコンサートを行う場合は有料公演とし、入場料収入は実施 団体に帰属するものとする。

(3) 総括公演プログラム

対象団体は、総括公演(ガラコンサート)を実施する(原則として1回)。

なお、総括公演は有料公演とし、入場料収入は対象団体に帰属するものとする。

4 経費負担

事業実施に伴う下記の経費については、地域創造が負担する。

ただし、下記以外の経費及び対象団体又は実施団体が前項に定める内容を超えて事業を行った場合に発生した超過分については、対象団体又は実施団体の負担とする。

(1) 演奏家経費

事業参加に係る報酬(出演料、謝金等を含む)、交通費(現地移動費を除く)、宿泊費、日当及 び損害保険料を負担する。

また、現地までの楽器運搬費について、演奏家からの請求に基づき、演奏家1名1回につき25,000円を限度として実費を負担する。

(2) 研修プログラム及び総括公演プログラム負担金

対象団体が支出した研修プログラム及び総括公演プログラム実施に係る経費のうち、別紙対象経費について、450,000円を限度として負担する。

(3) 地域交流プログラム負担金

実施団体が支出した地域交流プログラム実施に係る経費のうち、別紙対象経費について、1実施団体につき50,000円を限度として負担する。

5 事業実施に対する支援

(1) チーフコーディネーターの派遣

地域創造は、主に対象団体に対して、演奏家の選定方法、事業計画の立案及び事業の円滑な運営に関する助言等を行うため、地域の芸術活動に詳しい専門家をチーフコーディネーターとして派遣する。

(2) コーディネーターの派遣

地域創造は、主に実施団体に対して、事業担当者のコーディネート能力の向上及び地域交流プログラムのノウハウ蓄積に関する助言を行うとともに、演奏家に対して地域交流プログラム手法について助言を行うため、企画制作の経験が豊富な専門家をコーディネーターとして派遣する。

(3) アドバイザーの派遣

地域創造は、必要に応じて、対象団体の制作責任者 (ディレクター)、チーフコーディネーター、コーディネーター及び演奏家に対し、企画内容についてより専門的な助言及び情報提供を行うため、企画内容に応じた専門家等をアドバイザーとして派遣する。

(4) 講師の派遣

地域創造は、必要に応じて、研修プログラム実施時に講師を派遣する。

6 提出書類等

(1) 事業申込書 (別記様式1-1~1-3)

平成25年度に本事業の実施を希望する都道府県等は、実施予定会場のパンフレット等を添えて、 平成24年9月14日(金)までに提出すること。

なお、2(1)②及び③に該当する団体が申請をする場合には、施設設置者または出資者である地方公共団体の長の副申を受けること。

(2) 実施計画書、事業収支予算内訳(別記様式2-1~2-4)

本事業の実施を希望する都道府県等は、実施予定会場のパンフレット等を添えて、事業内容決 定後すみやかに提出すること。地域創造は、提出書類の内容を審査したうえで共催の可否を決定し、 申請者に通知するものとする。

(3) 実績報告書、事業収支実績内訳、負担金請求書(別記様式3-1~3-5、4-1~4-2) 事業終了後30日以内に、別途指示する関係書類を添えて提出すること。

なお、別記様式3-2及び3-3については、公開されることを前提として、プログラムのテーマ、開発された手法など具体的にその成果を記入すること。

(4) 変更承認申請書 (別記様式5-1~5-2)

共催決定通知を受けた後に申込み(申請)内容に重大な変更が生じた場合は、ただちに変更承認申請書を提出すること。

なお、変更の内容によっては事業の要件を満たさなくなり、共催できない場合がある。

7 その他

(1) 演奏家の選定

対象団体は、地域創造の推薦する演奏家から事業に参加する演奏家を選定する(原則として3組、 各3名まで)。

(2) 共催の表示

対象団体及び実施団体は、事業実施会場及び事業実施に際して作成される印刷物に、地域創造が共催している旨を表示すること。

【表示例】 共催:財団法人地域創造、共催:(財) 地域創造

(3) 損害賠償の免責

事業実施に伴い発生した損害賠償等の責任について、地域創造は責めを負わないものとする。

(4) 関係書類の提出

地域創造は、この要綱に定めのある書類のほか、対象団体の決定又は負担金の支払い等の審査並びに事業報告書の作成に当たって、必要な書類の提出を求めることができる。

(5) その他

事務手続き及びスケジュール等について必要がある場合は別途定める。また、事業の実施に関し、疑義が生じたときには、地域創造と対象団体が協議して決定する。

別紙

「4 経費負担」 対象経費一覧

(2) 研修プログラム及び総括公演プログラム負担金

項目	内容
音楽・文芸費	楽譜・楽器借料、作曲・編曲等謝金、著作権使用料など
舞台・会場費	舞台人件費、照明・音響費、楽器運搬費、会場整理等人件費、会場借上料など
旅費・諸謝金	地域交流プログラム視察旅費、事業打合せ等旅費
印刷製本費	チラシ・ポスター・プログラム・入場券等印刷費
消耗品費	事業に係る消耗品費
その他	その他事業の企画・制作に要する経費(振込手数料、印紙代を含む)

(3) 地域交流プログラム負担金

項目	内容
音楽・文芸費	楽譜・楽器借料、作曲・編曲等謝金、著作権使用料など
舞台・会場費	舞台人件費、照明・音響費、楽器運搬費、会場整理等人件費、会場借上料など
旅費交通費	事業打合せ旅費
印刷製本費	チラシ・ポスター・プログラム・入場券等印刷費
消耗品費	地域交流プログラムに係る消耗品費
その他	その他事業の企画・制作に要する経費 (振込手数料、印紙代を含む)

平成25年度 邦楽地域活性化事業 報告書

発 行:財団法人地域創造

〒107-0052

東京都港区赤坂2-9-11 オリックス赤坂2丁目ビル9階

TEL.03-5573-4050

FAX.03-5573-4070

URL.http://www.jafra.or.jp/

発行日:平成26年3月

